<u>ご注意：本書は正式な取り扱い説明書ではありません。</u>

本書は取り扱い説明書から注意文など製品の操作方法について直接関係のない部分や余白などを削除、修正したもので、操作方法が分からなくなったが説明書が手許にないとか、製品に興味があるが操作方法はどのようになっているのか先に知りたい、といった目的のために無償でご提供しています。正しくお使い頂くためには必ず製品に同梱されている説明書をお読み下さい。又、本書が完全な説明書では無いことに対するクレームは一切お受け致しませんので、予め御理解ください。

１：正式な説明書は無線機販売店でご購入いただけます。詳しくは下記の弊社ウエブサイトをご参照ください。http://www.alinco.co.jp/denshi/14.html

２：アマチュア無線機の場合、無線局免許状の書き方は申請書式や技適基準改正により変更になっているものがたくさんあります。http://www.alinco.co.jp/denshi/10.html　に技適番号やデジタルモード（音声・パケット）に関する情報を掲載しておりますので、合わせてご確認ください。

３：本書に記載の付属品・オプションアクセサリー・定格などは予告無く変更されているものがあります。最新の情報は弊社ホームページに掲載されています。

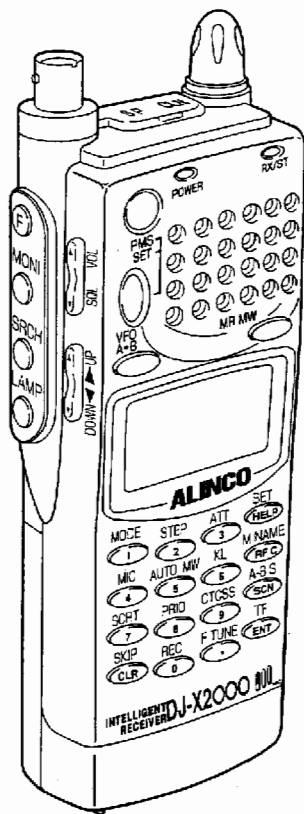
その他、動作や操作に関する良くあるお問い合せは：
http://www.alinco.co.jp/denshi/11.html　のＦＡＱページをご覧ください。

アルインコ（株）電子事業部

ALINCO

INTELLIGENT RECEIVER

DJ-X2000

取扱説明書

アルインコ インテリジェントレシーバーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本機の性能を充分に発揮させるために、まず、この取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保管しておいてください。

DJ-X2000の特徴

DJ-X2000は、長波（LF）から極超短波（UHF）まで広範囲の電波メディアをカバーする多機能レシーバーです。
DJ-X2000には次のような特徴があります。

1. **広範囲の受信周波数**
   0.1～2149.999950MHzの周波数に対応しています。
2. **3つの基本モード**
   デュアルVFO、メモリ（MR）、プログラムスキャン（PMS）の各モードをワンタッチで切り替え可能です。
3. **2000チャンネルのメモリー**
   40チャンネル×50バンクの合計2000チャンネルまで周波数を登録することができます。
4. **多彩なスキャン機能**
   プログラムスキャン（PMS）、メモリスキャン、モードセレクトスキャン、VFOスキャン、VFOリンクスキャン、プライオリティスキャンと、多彩なスキャン機能を搭載しています。
5. **20種類のプログラムスキャン**
   プログラムスキャンには、最大20のスキャンプログラムを登録することができます。
6. **チャンネルスコープ機能**
   受信中の周波数を中心として40チャンネルまたは7チャンネルの範囲内でどこに信号が出ているかを探す機能です。ディスプレイに表示されるグラフにより、信号の出ているチャンネルを一目で確認することができます。
7. **バッテリーセーブ機能**
   電池を長持ちさせるためのバッテリーセーブ機能を搭載しています。
8. **クローン機能**
   セット間で設定や各種データをコピーできるクローン機能を搭載しています。
   また、パソコンと接続して設定やデータをコピーすることもできます。
9. **オールモード受信**
   AM/NFM/WFM/LSB/USB/CWの電波型式を受信できます。またその周波数に最適な電波型式を自動的に選択するオートモードセレクト機能も搭載しています。
10. **周波数ステップ切り替え**
    50Hz～500kHzの間の23種類のステップ周波数から選択でき、さらに任意の周波数ステップを設定することもできます。また、受信中の周波数に最適な周波数ステップを自動的に切り替えることもできます。

11. 各周波数のエディット機能
登録したメモリーチャンネルのコピーや名前の変更などができます。

12. 盗聴機探知
電波を使用する盗聴機を探知する機能があります。盗聴機があると判断すると、ディスプレイと警告音で知らせます。

13. 録音機能
受信中の音声やマイクから入力した音声を最大160秒まで録音、再生できます。

14. 秘話解読
秘話反転された音声を解読する機能です。

15. 瞬間同調
最も強力なRF信号に瞬時に同調し、受信することができます。

16. 周波数カウンター
計測器として使用できる機能です。

17. 電界強度計
電界強度を表示する機能です。

18. 集音機能
マイクからの音を増幅モニタする機能です。

19. 簡易トランシーバー
250MHz帯でのトランシーバー機能、または連続送信する機能です。

20. FMステレオ受信
FMステレオ放送をステレオ受信できます。

21. CTCSSデコード
CTCSS信号を検知できます。

22. A/Bスケルチ
空線信号を検知できます。

23. ヘルプナビ
機能の説明を表示し、その機能の設定画面にジャンプできる機能です。

24. HF中波感度UPアンテナ
新開発の専用アンテナが付属しています。

25. DCスイッチング電源
電池の消費を抑えるDCスイッチング電源方式を採用しています。

26. 2段階アッテネーター
High（20dB）、Low（10dB）の2段階のアッテネーターを搭載しています。

目次

3. その他の便利な機能

4. 付録

このマニュアルの読み方

このマニュアルでは、次のような書式や記号が使われています。

太字は、各章やセクションの見出し、およびディスプレイに表示される内容の引用です。
ディスプレイの表示内容を引用する場合、操作説明に必要な部分のみ表記します。
実際にはそれ以外の文字もディスプレイに表示されています。
また、(　　)内は、言語選択を英語に設定した場合の表示です。
　例: 矢印を**チャンネルスコープ(CH SCOPE)** に合わせます。

「　」で囲んだタイトルは、このマニュアル内での参照先見出しタイトルです。
　例: 詳細は「2.4 周波数の設定」(P.21)をお読みください。

注意　慎重に行わなければならない操作や、誤ると製品を破損する恐れのある操作について記載しています。必ずお読みください。

メモ　知っておくと便利な機能や仕様などについて記載しています。

1. ご使用になる前に

1.1 付属品について

DJ-X2000には次の付属品が同梱されています。ご確認ください。

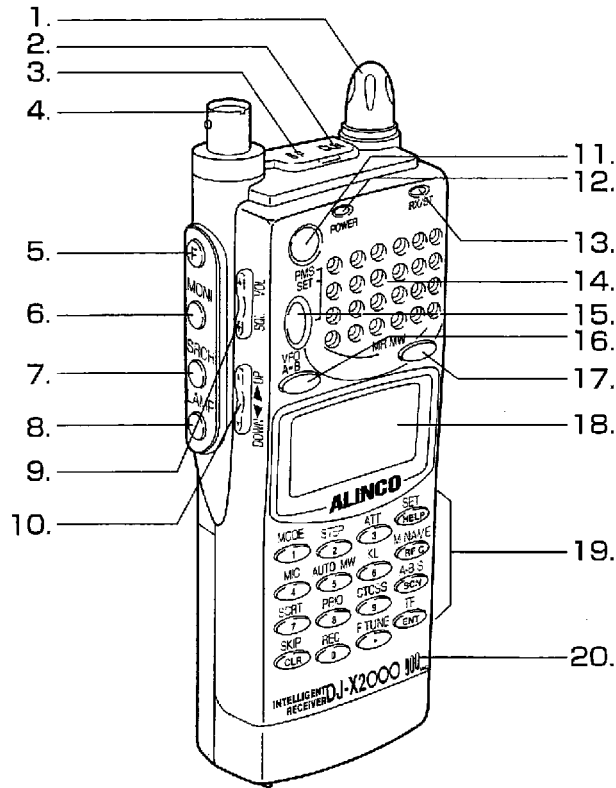
- アンテナ
- 乾電池ケース
- 急速充電器
- EBP-37N（ニッカドバッテリーパック）
- ベルトクリップ（ネジ2本付き）
- ハンドストラップ
- 取扱説明書（本書）
- 保証書

1.2 使用上の注意

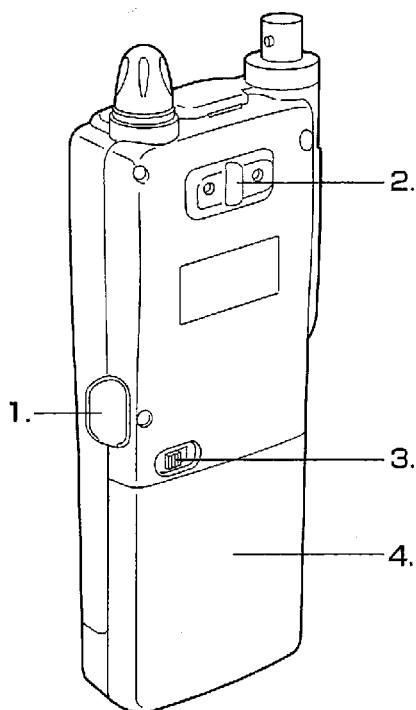
- ケースを外して内部に手を触れないでください。故障の原因となります。
- 直射日光に当たる所、ほこりの多い所、暖房器具の近くなどでのご使用、および保管はしないでください。
- 付属のアンテナを完全に取り付けてご使用ください。
- 外部電源には、必ず専用のアクティブフィルター付きシガーライターケーブル（EDC-36）をご使用ください。
- 万一、煙が出たり、変な臭いがする場合は、直ちに電源スイッチを切り、速やかに販売店または最寄の当社サービス窓口へご連絡ください。
- 本機の改造はおやめください。無理な改造が原因と思われる故障等については、保証期間内であっても、保証がきかなくなるうえに、修理をお断りする場合もあります。十分にご留意ください。
- 本機を次のような場所で使用する場合には、管理者等の承認を得るようにしてください。
  ①航空機内　　②病院等医療施設内
- 9.6V以上の電池（EBP-36N）は使用できません。

1.3 各部の名称と機能

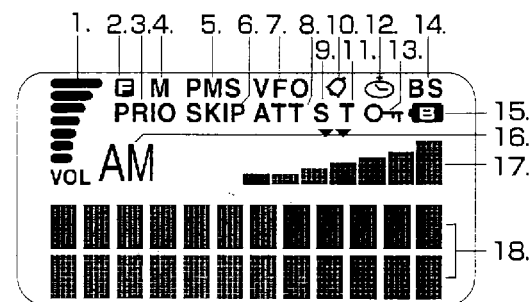
DJ-X2000の各部の名称および機能について説明しています。

1.3.1 上面、正面、側面（左）

1. ダイヤル	周波数やメモリチャンネルの切り替え、スピーカー音量、スケルチの感度の調整、その他の各種設定に使用します。
2. クローン端子	セット間のクローンおよびパソコンとの通信端子です。
3. SP端子	外部アンプ付きスピーカーまたはイヤホンを接続するための端子です。アンプ付きステレオスピーカー、イヤホンを接続すると、FMステレオ放送を受信できます。
4. アンテナコネクター	付属のアンテナを接続するためのBNCコネクターです。
5. Ⓕ（ファンクション）キー	他のキーとの組み合わせ操作により、各種機能を呼び出すことができます。
6. MONI ◯ キー	このキーを押している間は、スケルチのレベルに関係なく、一時的にスケルチを解除します。
7. SRCH ◯ キー	このキーを押すと40CHスコープ機能が動作します。もう一度押すとOFFになります。また、Ⓕキーを押しながらこのキーを押すと、7CHスコープとなります。トランシーバーモード時は、PTTキー（下記参照）として使用します。
8. LAMF ◯ キー	ディスプレイの照明をON/OFFします。
9. VOL/SQLキー	スピーカー音量、スケルチの感度の調整に使用します。
10. UP/DOWNキー	周波数の増減、スピーカー音量、スケルチの感度の調整、各種設定値の増減、およびメニューの項目選択に使用します。
11. 電源スイッチ	電源をON/OFFします。
12. ハードリセットキー	CPUリセットします。タイマー設定はクリアされます。メモリーの登録内容は消えません。前回の電源OFF時の機能設定状態に戻ることがあります。
13. BUSYランプ	信号を受信すると緑に点灯します。（FMステレオ放送受信時（イヤホン使用時）は橙） また、トランシーバーモードでは、送信時に赤に点灯します。
14. スピーカー	薄型スピーカーを内蔵しています。
15. PMS SET ◯ キー	プログラムスキャンモードに移行します。また、Ⓕキーを押しながらこのキーを押すと、プログラムスキャンの登録ができます。
16. VFO A=B ◯ キー	デュアルVFOモードになります。また、Ⓕキーを押しながらこのキーを押すと、ディスプレイ上段の周波数を下段にコピーできます。
17. MRMW ◯ キー	メモリーの呼び出しに使用します。また、Ⓕキーを押しながらこのキーを押すと、メモリの書き込みができます。
18. ディスプレイ	周波数表示や、設定、運用状態などを表示します。
19. キー	VFOモードでは目的周波数を直接入力することができます。また、Ⓕキーとの組み合わせにより、各種機能を動作させることができます。
20. マイク	集音、録音機能やトランシーバーモードで使用するマイクを内蔵しています。

⚠ メモ　PTTキーとは通常トランシーバーに装備されているキーで、押している間送信、または送信と受信の切り替えに使用します。DJ-X2000では、トランシーバーモード時に SRCH ◯ キーでこの操作をします。

1.3.2 背面、側面（右）

1. DC-IN	10〜16VのDC外部電源接続用端子です。
2. ベルトクリップ取付穴	付属のベルトクリップを取り付けるための穴です。
3. 電池ケースロック	電池ケースを外すときに、右にスライドさせます。

4. EBP-37Nニッカドバッテリーパックまたは電池ケース
ニッカド電池、または単3型乾電池を4本収納するための電池ケースをここに取り付けます。

1.3.3 ディスプレイ

1. VOL	音量のレベルを表示します。
2. F	Ⓕキーを押すと点灯します。点灯した状態で他のキーを操作することで、各種機能を動作させることができます。
3. PRIO	プライオリティ機能動作時に点灯します。
4. M	メモリー（MR）モード時に点灯します。
5. PMS	プログラムスキャン（PMS）モード時に点灯します。
6. SKIP	メモリースキャン時にスキップされるチャンネルであることを示します。
7. VFO	VFOモード時に点灯します。
8. ATT	アッテネーター動作時に点灯します。
9. S	設定された周波数ステップで割り切れない周波数で入力されたときに点灯します。
10. （ベルマーク）	ベル機能が設定されているときに点灯します。
11. T	CTCSS機能が設定されているときに点灯します。
12. （タイマーマーク）	オンタイマー、オフタイマーが設定されているときに点灯します。
13. （キーマーク）	キーロック機能が設定されているときに点灯します。
14. BS	バッテリーセーブ機能動作時に点灯します。
15. B	電池が消耗すると点灯します。点灯したら、電池を交換してください。
16. AM	電波型式が表示されます。音量、スケルチ調整時は、音量レベル、スケルチレベルが表示されます。
17. 受信レベル	信号の受信レベルを表示します。また、設定によりタイマーやチャンネルスコープの設定も表示します。

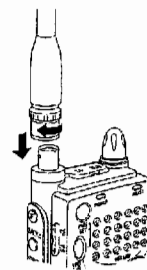
18. ドットマトリックス式表示部
周波数や各種設定内容、メッセージなどを表示します。

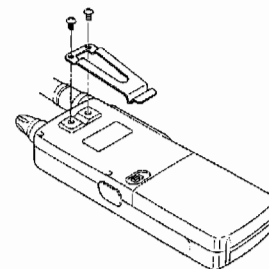
1.3.4 キー

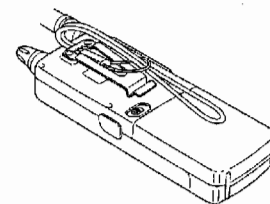
	キー	説明
1.	MODE (1)	「1」を入力します。 F 点灯状態では、電波型式を切り替えます。
2.	STEP (2)	「2」を入力します。 F 点灯状態では、周波数ステップを設定します。
3.	ATT (3)	「3」を入力します。 F 点灯状態では、アッテネーターのON/OFFを設定します。
4.	MIC (4)	「4」を入力します。 F 点灯状態では、集音機能を動作します。
5.	AUTO MW (5)	「5」を入力します。 F 点灯状態では、オートメモリライト機能のON/OFFを設定します。
6.	KL (6)	「6」を入力します。 F 点灯状態では、キーロック機能のON/OFFを設定します。
7.	SCRT (7)	「7」を入力します。 F 点灯状態では、秘話機能を設定します。
8.	PRIO (8)	「8」を入力します。 F 点灯状態では、プライオリティー機能のON/OFFを設定します。
9.	CTCSS (9)	「9」を入力します。 F 点灯状態では、CTCSSデコード機能の設定をします。
10.	SKIP (CLR)	未確定の設定を解除します。VFOモード時、 F 点灯状態では、VFO A－B LINK設定をします。PMS、MRモード時、 F 点灯状態では、PMS、MRモードで、それぞれスキャンパス周波数、スキップチャンネルを設定します。
11.	REC (0)	「0」を入力します。 F 点灯状態では、録音機能を動作します。
12.	F TUNE (・)	「・」を入力します。 F 点灯状態では、瞬間同調機能を設定します。
13.	SET (HELP)	ヘルプを表示します。 F 点灯状態では、各種の設定をするメニューを表示します。
14.	M NAME (RFC)	瞬間同調機能を動作します。 F 点灯状態では、メモリータグ検索を動作します。
15.	A-B S (SCN)	スキャンを開始します。 F 点灯状態では、バンドA、バンドB間をスキャンします。
16.	TF (ENT)	メニューの呼び出しおよび入力値の確定し使用します。 F 点灯状態では、盗聴発見機能を動作します。

1.4 DJ-X2000のセットアップ

ご使用になる前に、付属のアンテナを確実に取り付けてください。また、必要に応じて付属のベルトクリップ、ハンドストラップを取り付けます。

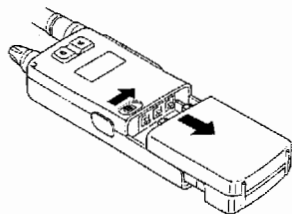
1.4.1 アンテナの取り付け

アンテナの根元を持ち、アンテナコネクターの凸部に合わせて差し込み、アンテナを右（時計方向）に回します。
確実に取り付けたことを確認してください。

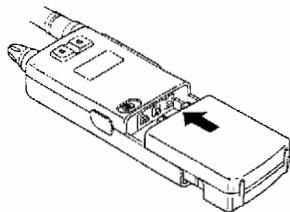
1.4.2 ベルトクリップの取り付け

ベルトクリップを付属のネジ2本で本体の背面に取り付けます。
確実に取り付けたことを確認してください。

1.4.3 ハンドストラップの取り付け

ベルトクリップと本体の溝の間に左の図のように取り付けます。

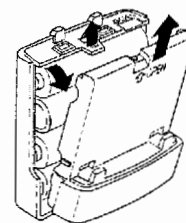
1.5 電池について

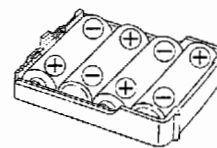
1.5.1 電池ケースの取り付け

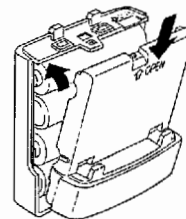
• 電池ケースの取り外し

電池ケースロックボタンを右にスライドしたまま、電池ケースを引き抜きます。

• 電池ケースの取り付け

電池ケースを本体の溝に合わせて、矢印の方向に「カチッ」と音がするまで差し込みます。

1.5.2 乾電池のセット

1 電池ケースを開きます。

電池ケースの上部のツメを図のように外し、上方向に引き上げると、電池ケースが開きます。

2 乾電池をセットします。

単3型アルカリ乾電池4本を、電池ケースの「+」「−」表示に従ってケースにセットします。

3 電池ケースを閉じます。

図のようにカバーの下のツメを本体に合わせ、「カチッ」と音がするまで押します。

> ⚠ 注意
> • 同じメーカーの同じ種類の乾電池を使用してください。長時間の運用には、アルカリ乾電池の使用をおすすめします。
> • 新しい乾電池と古い電池の混在は避けてください。
> • 別売のニッカド電池をご使用の場合は、ご使用前に必ずニッカド電池の取扱説明書をお読みください。

1.5.3 ニッカドバッテリーパックについて

付属のニッカドバッテリーパック（EBP-37N）をご使用の前に、必ずお読みください。

1. 本バッテリーは出荷時には充電されておりません。お買い上げ後、充電してからご使用ください。
2. 本バッテリーを完全に充電するには、約1時間必要です。
3. 充電は0℃~40℃の温度範囲内でおこなってください。
4. バッテリーパックの改造、分解、火中・水中への投入は危険ですからしないでください。
5. バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器を損傷させたり、バッテリーの発熱によりやけどの恐れがあります。
6. 必要以上の長時間充電（過充電）はバッテリーの性能を低下させますので避けてください。
7. バッテリーパックの保存は、－20℃~＋45℃の範囲で、乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの液漏れや、金属部のサビの原因になりますので避けてください。
8. 通常の使用で約300回の充電が可能ですが、所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は、寿命が尽きたと思われます。新しいものをご使用ください。
9. ご使用済みのニッカド電池は貴重な資源です。再利用しますので、廃棄しないでニッカド電池回収協力店へご持参ください。
10. 使用途中で充電を繰り返すと、メモリー効果の影響で使用時間が短くなることがあります。

• ニッカド電池のショート防止

ニッカドバッテリーパックを持ち運ぶときには、端子を絶対にショートさせないよう注意してください。大電流が流れ、やけどや火事になる危険があります。

1. クサリなどの金属物と一緒にバッグに入れないでください。
2. 金属メッキしてあるハンカチや、内側が金属メッキしてあるバッグに直接入れたり、くるんだりしないでください。
3. クギ、クサリなどの金属類や、電気を通す物がある所に置いたり端子を触れさせないようにしてください。
4. バッグに入れる場合は、電気を通さない袋やハンカチなどにくるんでください。
5. 電気を通さないものを敷いて、置いてください。

1.5.4 ニッカド電池の充電

ニッカド電池の充電には、付属の急速充電器（EDC-88）を使用します。

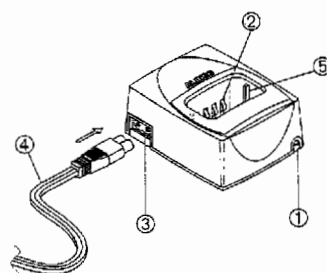
⚠ご使用前のご注意

1. この充電器は当社のニッカドバッテリーパック専用です。他の充電式電池や乾電池の充電には絶対に使用しないでください。
2. この充電器を他の機器の電源として使用しないでください。
3. 充電器を分解しないでください。
4. 金属片や針金などを充電器内部に入れたり、充電端子をショートさせたりしないでください。
5. 暖房器の近くや直接日光の当る場所など高温になる所、また、ホコリや湿気の多い場所では使用しないでください。

• EDC-88の各部の名称と機能

①ランプ

充電器の動作状態を表します。

ランプ表示	動　作	バッテリーパックの処理
赤　点灯	急速充電中	充電終了まで放置する
緑　点灯	補充電中	取り出しても良い
緑　点滅	補充電終了	取り出す
赤　点滅	完全放電バッテリーの補充電中	充電終了まで放置する
赤・緑交互点滅	異常バッテリー装着時	すぐに取り出す

②充電端子

充電用の端子です。

③AC電源ソケット

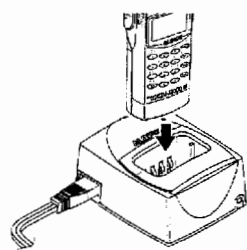
AC電源コードを差し込むソケットです。

④AC電源コード

AC電源を供給するコードです。

⑤ガイド（左右2ヵ所）

DJ-X2000を挿入するためのガイドです。

• 充電方法

1 AC電源コードを充電器のAC電源ソケットに差し込んでください。

2 充電するバッテリーパックを充電器の両サイドのガイドにそって挿入します。ランプが赤色に点灯し急速充電が開始されます。

3 急速充電が完了するとランプは緑色の点灯に変わり、補充電に切り替わります。

4 充電開始から約4時間が経過すると、ランプは緑色の点滅に切り替わり、補充電が終了します。

⚠ メモ　補充電とは、バッテリーパックの自己放電による容量低下を防止するために微弱電流で電池に負担をかけずに充電することです。

• 使用できるバッテリーパックと充電時間

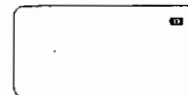
この充電器が使用できるバッテリーパックとおよその充電時間は次の通りです。

バッテリーパック	電池容量	充電時間
EBP-33N	4.8V 650mAh	約1時間
EBP-34N	4.8V 1200mAh	約1.5時間
EBP-35N	7.2V 900mAh	約1.2時間
EBP-37N	4.8V 700mAh	約1時間
EBP-47N	7.2V 700mAh	約1時間

⚠ 充電時のご注意

1. 充電中はDJ-X2000の電源を必ずOFFにしてください。充電中にDJ-X2000を使用した場合は故障の原因になります。
2. この充電器は周囲温度が10℃ ～ 40℃の範囲内で充電できるように設計されています。この範囲外での充電は避けてください。
3. 充電が完了しているバッテリーパックを繰り返し連続充電しないでください。バッテリーパックの性能が劣化することがあります。通常の使用で300回の充電が可能ですが、充電完了後も電池の使用時間が著しく短くなった場合は、電池の消耗が原因だと考えられます。新しいバッテリーパックをお買い求めください。
4. バッテリーパックを逆方向には挿入しないでください。
5. 充電が完了しランプが緑色に点滅している場合は、バッテリーパックを充電器から抜いてください。
6. 長時間ご使用にならないときは、AC電源コードをコンセントから抜いてください。またバッテリーパックも充電器から抜いてください。
7. 放電のため、電圧が異常に低下したバッテリーパックの充電を行った場合は、充電開始直後にランプが赤色に点滅して予備充電が開始されます。その後、ランプは赤色の点灯に変わり急速充電が開始されます。
8. 異常なバッテリーパックがセットされると、ランプは赤色と緑色の交互に点滅します。

1.5.5 バッテリー切れ警告

バッテリ電圧が低くなると、警告音と共にディスプレイにバッテリーマークが点灯します。バッテリーを充電または交換してください。
ビープ音をOFFに設定しているときは、警告音は鳴りません。

2. 基本操作

この章では、DJ-X2000の基本的な操作について説明します。

2.1 電源スイッチ

次の手順で、DJ-X2000の電源をON/OFFします。

• 電源ON

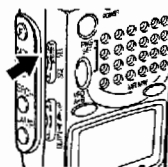
電源スイッチを約1秒間押し続けます。ディスプレイに「ALINCO INTELLIGENT RECEIVER」と表示されます。

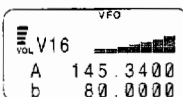
• 電源OFF

ディスプレイの表示が消えるまで、電源スイッチを押し続けます。

 メモ　電源ON時に表示されるメッセージは変更することができます。（「3.1.12 イニシャルメッセージの変更」（P.41）参照）

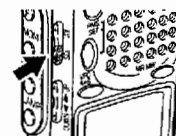
2.2 音量の調整

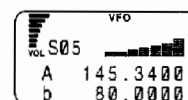
音量調整の手順は次のとおりです。

音量を大きくするには、本体左側のVOLキーを押してから、UPキーを押すかダイヤルを右（時計方向）に回します。小さくするにはVOLキーを押してから、DOWNキーを押すかダイヤルを左（反時計方向）に回します。

音量の調整に従ってディスプレイの VOL が増減し、数値がV00～V31まで変化ます。

 メモ　スケルチを一時的に解除するには、本体左側の MONI キーを押します。押している間、スケルチが開きます。この操作により、スケルチレベルを変えずに音量の設定ができます。（「2.3 スケルチの調整」（P.21）参照）

2.3 スケルチの調整

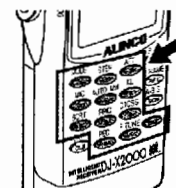
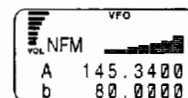
スケルチとは、一定レベル以上の電界強度を受信したときのみ、スピーカーから音を出す機能です。受信信号がないときにスピーカーから出る雑音をカットでき、待ち受けしやすくなります。

スケルチレベルはS00～S31から選択することができます。

本体左側のSQLキーを押してから、UP/DOWNキーを押すかダイヤルを回して、スケルチレベルを調整します。

設定値に従って、ディスプレイにスケルチレベルが表示されます。

 メモ
- スケルチレベルが高いほど、スケルチは開きにくくなります。ノイズが消えるレベルまでスケルチレベルを上げます。
- スケルチが開くレベルは、電界強度が同じでも受信する周波数によって変化します。受信する周波数に最適なレベルに調整してください。
- スケルチレベルが高すぎると、信号を受信してもその信号が弱い場合には、スピーカーから音が出ません。

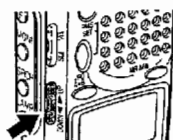
2.4 周波数の設定

周波数の設定には、テンキーによる入力、UP/DOWNキーによる調整、ダイヤルによる調整、Ⓕキーとダイヤルによる調整の4種類の方法があります。

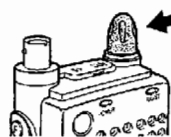
• テンキーによる入力

受信したい周波数をテンキーから直接入力し、(ENT/TF) キーを押します。

例1　145.3400MHzに設定するには、(1/MODE)、(4/MIC)、(5/AUTO MW)、(・/F.TUNE)、(3/ATT)、(4/MIC)、(ENT/TF) キーの順に押します。
最後の00は省略可能です。

例2　0.5580MHz(558kHz)に設定するには、(0/REC)、(・/F.TUNE)、(5/AUTO MW)、(5/AUTO MW)、(8/PRIO)、(ENT/TF) キーの順に押します。
最後の0は省略可能です。

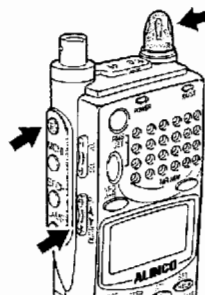
メモ　設定した周波数ステップで割り切れない周波数を入力すると、ディスプレイにSが表示されます。

● UP/DOWNキーによる調整

周波数を増加させるにはUPキーを押し、減少させるにはDOWNキーを押します。
周波数が、設定された周波数ステップ単位で増減します。

メモ　周波数ステップの設定については、「3.1.2 周波数ステップの設定」(P.33)をお読みください。

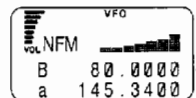
● ダイヤルによる調整

周波数を増加させるにはダイヤルを右（時計方向）に回し、減少させるには左（反時計方向）に回します。
周波数が、設定された周波数ステップ単位で増減します。

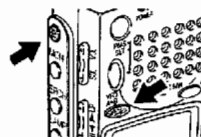
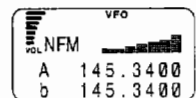
メモ　周波数ステップの設定については、「3.1.2周波数ステップの設定」(P.33)をお読みください。

● Ⓕキーとダイヤルによる調整

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態でUP/DOWNキーを押すと、100MHz、10MHz、1MHzのいずれかの桁にアンダーバーが表示されます。ダイヤルを回すとその桁の数値を変更できます。
UP/DOWNキーを押すと数値を変更できる桁が移動します。

2.5 バンドの切り替え

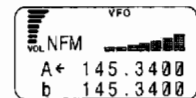
DJ-X2000はデュアルVFO方式を搭載しています。現在受信中の周波数と、あらかじめ入力したもうひとつの周波数を簡単に切り替えて受信することができます。
AまたはBが大文字で表示されている側の周波数が、現在受信中であることを示します。
バンド切り替えの手順は次のとおりです。

VFO A-B キーを押す毎に、ディスプレイの上段、下段の周波数が切り替わります。
上段に表示されている（大文字で表示されている側）の周波数が、現在受信中の周波数になります。

2.6 バンドのコピー

2つのVFOの内、現在受信中の周波数を、もうひとつのVFOにコピーすることができます。手順は次のとおりです。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F 表示した状態で VFO A-B キーを押します。
現在受信中のバンド（ディスプレイ上段、大文字で表示された側）の周波数がもうひとつのバンド（ディスプレイ下段、小文字で表示された側）にコピーされます。

2.7 スキャン

スキャンとは、周波数を周期的に変化させて受信し、信号の出ている周波数を探し出す機能です。スキャンの基本的な操作は次のとおりです。

● スキャンの実行

A-BS SCN キーを押すと、設定した周波数ステップに従ってスキャンを開始します。
スキャン中は、受信中（上段大文字表示）のVFO側に矢印が表示されます。矢印が左向きのときは、周波数が高い方向にスキャンしていることを示します。

メモ　CTCSSまたはA/Bスケルチが設定されているときは、判定に時間がかかるため、スキャンは遅くなることがあります。

信号が出ている周波数を受信するとスキャンが一時停止します。
スキャンを再開するには、ダイヤルを回すか、UPまたはDOWNキーを押します。また、スキャン再開条件設定により、スキャンを自動的に再開することもできます。詳細は、『3.1.15 スキャン再開条件の設定（スキャンモード）』(P.43）をお読みください。

• **スキャン方向の切り替え**

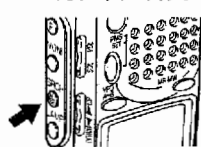
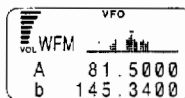
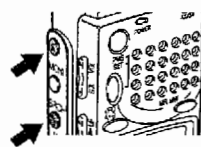
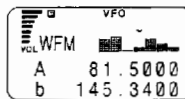
スキャン中にDOWNキーを押すと、矢印が右向きに変わり、周波数が低い方向へスキャンを実行します。周波数が高い方向へスキャンするにはUPキーを押します。スキャン方向は、ダイヤルを回すことで変えることもできます。

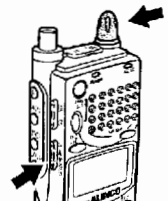
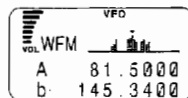
• **スキャンの解除**

再度 A-B-S SCN キーを押すと、スキャンを解除できます。

2.8 サーチ機能（チャンネルスコープ）

サーチ機能とは、設定された周波数ステップに従って、受信中の周波数を中心として40チャンネルまたは7チャンネルの範囲内でどこに信号が出ているかを探す機能です。ディスプレイに表示されるグラフにより、信号の出ているチャンネルを一目で確認することができます。

• **40チャンネルサーチ**

本体左側の SRCH キーを押すと、受信中の周波数を中心として40チャンネルの範囲内でサーチを開始します。サーチは設定した周波数ステップに従って実行されます。グラフ中央の▼の下に受信中の周波数を配置するようにグラフ表示され、それより高い周波数は右側、低い周波数は左側に表示されます。バーの長さは信号の強度を示します。

• **7チャンネルサーチ**

Ⓕキーを押し､ディスプレイに F を表示した状態で SRCH キーを押します。受信中の周波数を中心として7チャンネルの範囲内でサーチを開始します。

サーチは設定した周波数ステップに従って実行されます。グラフ中央の▼の下に受信中の周波数を配置するようにグラフ表示され、それより高い周波数は右側、低い周波数は左側に表示されます。バーの長さは信号の強度を示します。

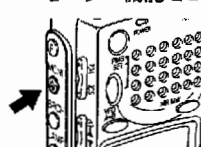
• **受信周波数の移動**

信号の出ている周波数を左に移動するには、ダイヤルを右（時計方向）に回すか、UPキーを押します。
信号の出ている周波数を右に移動するには、ダイヤルを左（反時計方向）に回すか、DOWNキーを押します。

• **サーチの解除**

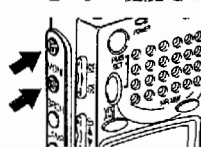
再度 SRCH キーを押すと、サーチを解除できます。

メモ
- サーチステップ、サーチ再開条件の設定をするには、『3.1.22 サーチ再開条件の設定』(P.49）をお読みください。
- 工場出荷時のサーチ再開条件はINTERVALに設定されています。約10秒に1度サーチをおこない、サーチしている間は音が途切れます。
- チャンネルスコープモードでのスキャン時、スピードが速いためSメータ表示が見えにくいことがあります。
- チャンネルスコープで表示されるグラフは、現在受信中の電波型式の範囲のみです。例えば、WFMの76.5MHzを中心にサーチをしても、NFMとなる76.0MHz未満のチャンネルは表示されません。
- チャンネルスコープモードが設定されているときは、バッテリーセーブ機能は動作しません。
- プライオリティが設定されているときは、チャンネルスコープモードは動作しません。
- MRモードでサーチ機能をONにすると、サーチ全表示に時間がかかることがあります。
- サーチ機能がONの状態でスキャンをスタートすると、スキャンスタートに時間がかかることがあります。

2.9 モニター機能（スケルチ解除）

信号の弱い周波数を受信するときに便利な機能です。

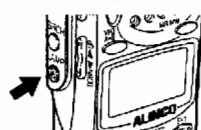
• **モニター機能をONにする**

本体左側の MONI キーを押すと、押している間スケルチが解除され、弱い信号を受信することができます。（信号がないときはノイズが聞こえます。）
MONI キーを離すと再びスケルチを閉じ、元の状態に戻ります。

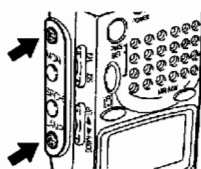
• **モニター機能をONにし続ける**

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で MONI キーを押します。
MONI キーを離した後もスケルチは解除された状態になります。
再度 MONI キーを押すと、再びスケルチを閉じ、元の状態に戻ります。

2.10 ランプ機能

夜間の運用時などに、各部の照明が点灯し使いやすくなる機能です。ランプ機能のON/OFFの手順は次のとおりです。

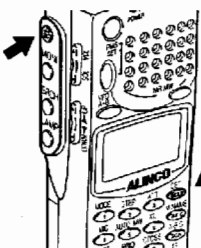
2.10.1 ランプのON/OFF

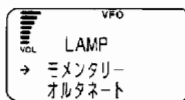
• ランプをONにする

本体左側の LAMP キーを押すと、ディスプレイとキーボードが照明されます。
ダイヤル、キーの操作中および LAMP キーを押している間照明されます。

• ランプをONにし続ける

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で本体左側の LAMP キーを押します。
再び LAMP キーを押すまで、照明し続けます。

2.10.2 ランプ機能の設定

ランプ機能は、設定に従って自動的にON/OFFさせることができます。
手順は次のとおりです。

1 LAMP画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET/HELP キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ TF/ENT キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+LAMPに合わせ TF/ENT キーを押します。

VFO
LAMP
→ モメンタリー
オルタネート

2 ランプ設定を選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したい項目に合わせ、TF/ENT キーを押します。(初期設定はモメンタリーです。)

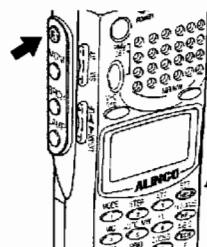
オート (AUTO)	ダイヤルまたはキー操作後、5秒間ランプが点灯します。
モメンタリー(MOMENTARY)	LAMP キーを押している間のみランプが点灯します。
オルタネート(ALTERNATE)	LAMP キーを押す毎に、ランプの点灯/消灯を切り替えます。

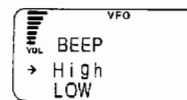
ディスプレイがCONFIGメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ TF/ENT キーを押します。(または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で TF/ENT キーを押します。)

⚠ メモ　SKIP/CLR キーでCONFIGメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

2.11 ビープ音機能

キー操作時などに鳴るビープ音のON/OFFや音量の設定をすることができます。

1 BEEP画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET/HELP キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ TF/ENT キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+BEEPに合わせ TF/ENT キーを押します。

VFO
BEEP
→ High
LOW

2 ビープ音の設定をします。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したい項目に合わせ、TF/ENT キーを押します。(初期設定はHighです。)

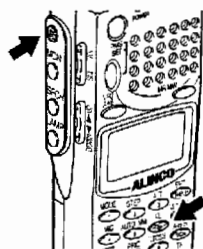
OFF	ビープ音をOFFにします。
High	ビープ音が大きい音で鳴ります。
LOW	ビープ音が小さい音で鳴ります。

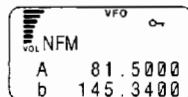
ディスプレイがCONFIGメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ TF/ENT キーを押します。(または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で TF/ENT キーを押します。)

⚠ メモ
• SKIP/CLR キーでCONFIGメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。
• ステレオイヤフォン使用時は、左のイヤフォンのみビープ音が聞こえます。

2.12 キーロック機能

同じ設定で受信、待ち受けし続けたいときなどに、誤操作を防止するため、一時的にキー操作をできなくする機能です。
手順は次のとおりです。

● キーロックする

Ⓕキーを押し、ディスプレイにⒻを表示した状態で KL 6 キーを押します。
ディスプレイに 鍵マーク が表示され、キー操作がロックされます。
ただし、キーロック中でも電源スイッチ、ダイヤル、および MONI 、VOL/SQL、UP/DOWN、Ⓕ、LAMP の各キーは操作可能です。

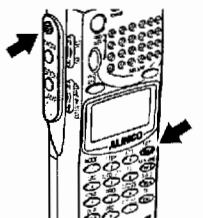
```
VFO
NFM
A    81.5000
b   145.3400
```

● キーロックを解除する

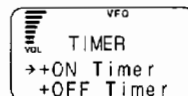
再度Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で KL 6 キーを押します。
キーロックが解除されます。

2.13 タイマーの設定

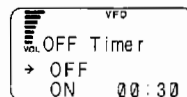
自動的に電源をON/OFFできる、オンタイマー、オフタイマーについて説明しています。
オンタイマーは自動的に電源が入るまでの時間、オフタイマーは自動的に電源が切れるまでの時間を設定できる機能です。
DJ-X2000のタイマーは24時間タイマーのため、設定した時刻を基準に毎日同時刻にONまたはOFFの動作をします。

2.13.1 オフタイマーの設定

1 TIMERメニューを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET HELP キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ、TF ENT キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+TIMERに合わせ、TF ENT キーを押します。

```
VFO
TIMER
→+ON Timer
 +OFF Timer
```


2 OFF Timer画面を呼び出します。

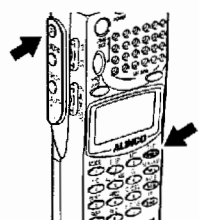
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+OFF Timerに合わせ、TF ENT キーを押します。

3 オフタイマーを設定します。

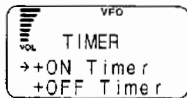
UP/DOWNキーで矢印をONに合わせ、ダイヤルで自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。(初期設定はOFFです。)
時間は、30分刻みで最大24時間まで設定できます。
OFFを選択すると、オフタイマーは動作しません。

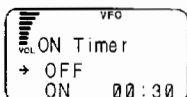
設定が終わったら、TF ENT キーを押します。ディスプレイがTIMERメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ TF ENT キーを押します。(または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で TF ENT キーを押します。)

⚠ メモ
- SKIP CLR キーでTIMERメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。
- オフタイマーを再設定すると、TF ENT キーを押した時刻を基準に、設定した時間経過後に電源OFFの動作をします。
- 電池を抜いたり、ハードリセットした場合、設定は解除されます。

2.13.2 オンタイマーの設定

1 TIMERメニューを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET HELP キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ、TF ENT キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+TIMERに合わせ、TF ENT キーを押します。

```
VFO
TIMER
→+ON Timer
 +OFF Timer
```

2 ON Timer画面を呼び出します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+ON Timerに合わせ、TF ENT キーを押します。

3 オンタイマーを設定します。

UP/DOWNキーで矢印をONに合わせ、ダイヤルで自動的に電源が入るまでの時間を設定します。(初期設定はOFFです。)
時間は、30分刻みで最大24時間まで設定できます。
OFFを選択すると、オンタイマーは動作しません。

設定が終わったら、(ENT)キーを押します。ディスプレイがTIMERメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ(ENT)キーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(ENT)キーを押します。）

⚠ メモ
- (CLR)キーでTIMERメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。
- オンタイマーを再設定すると、(ENT)キーを押した時刻を基準に、設定した時間経過後に電源ONの動作をします。
- 電池を抜いたり、ハードリセットした場合、設定は解除されます。

2.14 基本モード

DJ-X2000には、VFOモード、PMSモード、MRモードの3種類の基本モードがあります。現在選択しているモードが、ディスプレイ上部に表示されます。

- VFOモード

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで周波数を選択して受信するモードです。工場出荷時には、VFOモードに設定されています。

- PMSモード

スキャンの範囲を設定したプログラムを選択し、その範囲内をスキャンして受信するモードです。

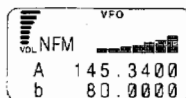
- MRモード

よく使う周波数をメモリーに登録しておき、そのメモリーを呼び出して受信するモードです。

2.14.1 VFOモード

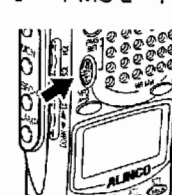
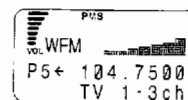
VFOモードには、A、Bの２つのバンドがあります。

- VFOモードへの移行

(VFO A=B)キーを押すと、VFOモードへ移行します。（すでにVFOモードになっている場合は、(VFO A=B)キーを押すと、A、Bのバンドが切り替わります。）

周波数の設定、バンドの切り替えについては、『2.4 周波数の設定』（P.21）、『2.5 バンドの切り替え』（P.23）をお読みください。

2.14.2 PMSモード

PMSモードには合計20のプログラムバンドがあります。（P、p各10プログラムバンド）

1 PMSモードへ移行します。

(PMS SET)キーを押すと、PMSモードへ移行します。プログラムは工場出荷時に登録されていますが、変更することもできます。詳細は『3.3.1 スキャンプログラムの登録』（P.67）をお読みください。

2 Pとpを切り替えます。

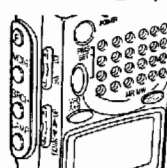
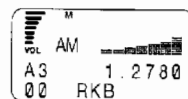
(F TUNE)キーを押す毎に、Pとpが切り替わります。

3 バンクを選択します。

テンキーを押すと、その番号に対応したプログラムスキャンを開始します。
スキャン方向は、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで切り替えることができます。
別のテンキーを押すと、その番号に対応したプログラムスキャンを開始します。

2.14.3 MRモード

メモリーモードにはA～Eの5つのバンクグループがあります。それぞれのバンクグループに10のバンク（0～9）があり、各バンクに最大40チャンネル（00～39）の周波数を登録することができます。

1 MRモードへ移行します。

(MRMW)キーを押すと、PMSモードへ移行し、登録されている周波数と名称が表示されます。
周波数は工場出荷時に登録されていますが、変更することもできます。詳細は『3.3.1 スキャンプログラムの登録』（P.67）をお読みください。

2 バンクグループを選択します。

(F TUNE)キーを押す毎に、A～Eのバンクグループが切り替わります。

3 バンクを選択します。

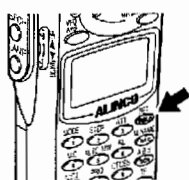
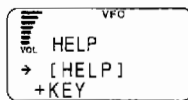
テンキーを押して、バンクNo.を選択します。

4 チャンネルを選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、チャンネルを00～39の中から選択します。
ディスプレイ上段に登録された周波数、下段にその名称が表示されます。

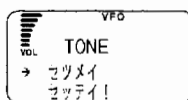
2.15 ヘルプ機能

機能や操作方法が分からないときなどに、ディスプレイに説明を表示させる機能です。また、ヘルプの項目から各設定画面にジャンプし、設定することもできます。

1 ヘルプメニューを表示する。

SET/HELP キーを押すと、ヘルプメニューが表示されます。

2 説明を見たい機能を選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、説明を見たい項目に矢印を合わせ、TF/ENT キーを押すとその項目のサブメニューを表示します。
項目によって、さらにその下にサブメニューがあるものもあります。同様に矢印を合わせ、TF/ENT キーを押します。SKIP/CLR キーを押すと上の階層に戻ります。

3 ヘルプを実行します。

セツメイ（Inst.）に矢印を合わせて TF/ENT キーを押すとその機能の説明を表示します。
セッテイ!（Set!）に矢印を合わせて TF/ENT キーを押すとその機能の設定画面にジャンプします。
その他、うしろに！が付いた項目は、矢印を合わせて TF/ENT キーを押すとその機能を実行します。

4 ヘルプを終了します。

元の画面に戻るまで、SKIP/CLR キーを押します。

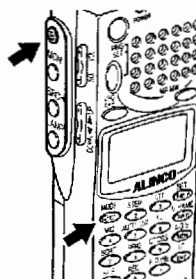
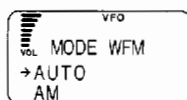
 メモ
- ヘルプの内容を英語で表示させることもできます。詳細は、『3.1.7 表示言語の設定』（P.38）をお読みください。
- セッテイ！を動作させるとヘルプ機能から抜けます。再度ヘルプを見る場合は、設定確定後または SKIP/CLR キーで解除後、SET/HELP キーを押します。

3. その他の便利な機能

この章では、DJ-X2000の便利な機能について説明しています。

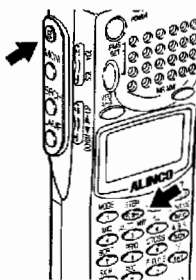
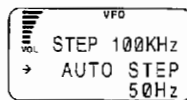
3.1 各モードに共通の機能

VFO、PMS、MRの各モードに共通の機能について説明しています。

3.1.1 電波型式の設定

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で MODE/1 キーを押します。MODE画面が表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したい電波型式の項目に合わせ、TF/ENT キーを押します。

電波型式はAM、NFM、WFM、USB、LSB、CW、AUTOから選択できます，AUTOを選択すると、受信周波数により最適な電波型式が自動的に設定されます。
（初期設定はAUTOです。）

⚠ メモ　PMS、MRモードでは、DIRECT WRをONに設定した場合に設定可能になります。（初期設定はOFFです。）詳細は、『3.3.31 設定の直接変更』（P.63）をお読みください。

3.1.2 周波数ステップの設定

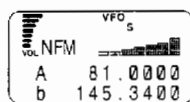
周波数を設定するとき、ダイヤルを1クリック、またはUP/DOWNキーを1回押す毎に何Hz単位で周波数を増減させるかを設定します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で STEP/2 キーを押します。
STEP画面が表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したい項目に合わせ、TF/ENT キーを押します。（初期設定はAUTO STEPです。）

周波数ステップは、AUTO STEP、50Hz、100Hz、200Hz、500Hz、1kHz、2kHz、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、9kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、250kHz、500kHz、USER STEP（任意）の中から選択できます。

メモ　PMS、MRモードでは、DIRECT WRをONに設定した場合に設定可能になります。（初期設定はOFFです。）詳細は、「3.3.31 設定の直接変更」(P.63)をお読みください。

AUTO STEPを選択すると受信周波数バンドに最適な周波数ステップが自動的に設定されます。
USER STEP（任意）を選択すると50Hz~499.95kHzの範囲で任意に設定できます。

例　150kHzを入力するとき：REC(0)、F TUNE(・)、MODE(1)、AUTO MW(5)、TF(ENT)
　　450kHzを入力するとき：REC(0)、F TUNE(・)、MIC(4)、AUTO MW(5)、TF(ENT)

● ステップシフト表示
設定されたステップで割り切れない周波数で入力された場合もその入力を受け付けます。その場合、ビープ音が鳴り、ディスプレイに通常以外のステップで動作していることを示すSが表示されます。

3.1.3 アッテネーター機能

他のチャンネルからの影響を軽減する機能です。
受信している信号が他のチャンネルの強力な信号の影響を受けているような場合に使用し、受信中の信号を聞きやすくする機能です。

1 ATT画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で ATT(3) キーを押します。ATT画面が表示されます。

2 アッテネーターレベルを設定します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したいアッテネーターレベルに合わせ、TF(ENT) キーを押します。（初期設定はOFFです。）

OFF　アッテネーターをOFFにします。
LOW　影響を受けている信号を約10dB軽減します。
High　影響を受けている信号を約20dB軽減します。

ディスプレイ上部にATTと表示され、アッテネーター機能がONになったことを示します。

メモ
● 周波数によって軽減度が多少変化します。
● PMS、MRモードでは、DIRECT WRをONに設定した場合に設定可能になります。（初期設定はOFFです。）詳細は、「3.3.31 設定の直接変更」(P.63)をお読みください。

3.1.4 バッテリーセーブ機能

電池を長持ちさせるための機能です。無操作状態または信号を受信していない状態が一定時間続くと、内部電源を定期的にON/OFFさせて電池の消耗を少なくします。

1 BATT SAVE画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で SET(HELP) キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ、TF(ENT) キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+BATT SAVEに合わせ、TF(ENT) キーを押します。

VFO
BATT SAVE
→ OFF
SHORT

2 バッテリーセーブ機能のON/OFFの比率を設定します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したいON/OFFの比率に合わせ、TF(ENT) キーを押します。（初期設定はNORMALです。）

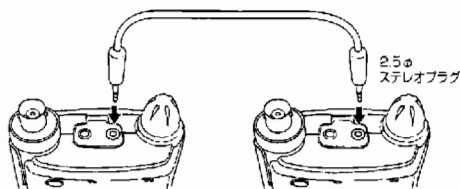
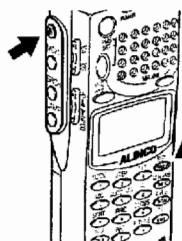
ディスプレイがCONFIGメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ TF(ENT) キーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で TF(ENT) TF(ENT) キーを押します。）

メモ
● SKIP(CLR)キーでCONFIGメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。
● LONGに設定すると、内部電源をOFFにする時間が長くなり電池は長持ちしますが、受信反応は遅くなります。

3.1.5 クローン機能

クローン機能とは、1台のDJ-X2000（親機）に設定したメモリーの内容を、他のDJ-X2000（子機）との間で転送する機能です。クローンには2台のDJ-X2000を接続するための2.5φのステレオプラグ付きケーブルが必要です。

1 2台のDJ-X2000の電源を入れ、接続します。

本体上部のキャップを外し、図のようにCLN端子にケーブルを接続します。

2 クローンを実行します。

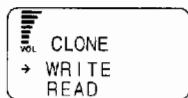
Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で SET/HELP キーを押します。

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ、TF/ENT キーを押します。

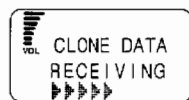
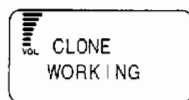
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+CLONEに合わせ、TF/ENT キーを押します。

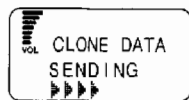
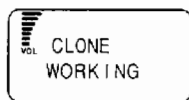
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を実行したいクローンの種類に合わせ、TF/ENT キーを押します。

子機側の操作は必要ありません。

```
VOL  CLONE
  →  WRITE
     READ
```

READ　もう一台のDJ-X2000からメモリーの内容をコピーします。
WRITE　もう一台のDJ-X2000へメモリーの内容をコピーします。
END　コピーを行わずに、クローン機能をキャンセルします。

・READ選択時

親機の表示

子機の表示

・WRITE選択時

親機の表示

子機の表示

クローンが終了すると、子機は通常表示に戻り、親機はCLONEメニューに戻ります。

3 クローンを終了します。

クローンが終わったら、両方のDJ-X2000からクローンケーブルを抜きます。親機は SKIP/CLR キーを押すとクローンメニューを終了します。子機はそのまま使用できます。

注意　クローン中はケーブルを抜かないでください。また、クローン中に電源をOFFにしないでください。

3.1.6 通信スピードの設定

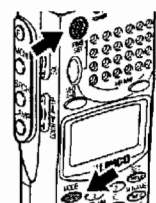
クローンまたはパソコンとの通信時の通信スピードを設定できます。（初期設定は38400bpsです。）

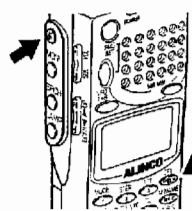
・38400bpsに設定する場合

ATT/3 キーを押しながら電源をONにします。

・19200bpsに設定する場合

STEP/2 キーを押しながら電源をONにします。

・9600bpsに設定する場合

MODE/1 キーを押しながら電源をONにします。

電源をONにしたとき、ディスプレイに設定された通信スピードが表示されます。

メモ
- 通信スピードが違うDJ-X2000間のクローン、またはパソコンとの通信はできません。
- 初期値は高速の38400bpsですが、通信でエラーが多い場合はスピードを下げて再通信をしてください。エラーが多い場合は、9600bpsを使用してください。

3.1.7 表示言語の設定

DJ-X2000は、工場出荷時には日本語表示に設定されていますが、英語表示に設定することもできます。

1 LANGUAGE画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET/HELP キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ TF/ENT キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+LANGAUGEに合わせ TF/ENT キーを押します。

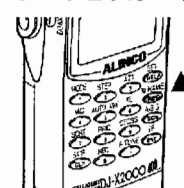
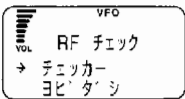
VFO
LANGUAGE
→ ニホンゴ
English

2 言語を選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をEnglishまたはニホンゴ(Japanese)に合わせ TF/ENT キーを押します。(初期設定はニホンゴです。)
ディスプレイがCONFIG画面に戻るので、矢印をENDに合わせ TF/ENT キーを押します。(または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で TF/ENT キーを押します。)

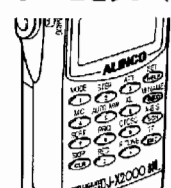
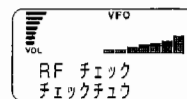
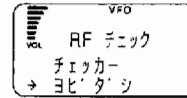
⚠ メモ SKIP/CLR キーでCONFIGメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

3.1.8 電界強度計

非同調形電界強度計のレベル設定ができ、レベルに達するとベルが鳴る機能です。盗聴機の送信チェックなどに利用できます。
DJ-X2000には、次の2種類の電界強度の測定方法があります。

電界強度計の表示	電界強度の強弱をSメータとビープ音で示します。
設定値コール動作	設定したレベル以上の電界強度に反応して、ベルが鳴ります。

• 電界強度計の表示

1 チェッカー(CHECKER)画面を呼び出します。

M NAME/RFC キーを押すとRFチェックメニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をチェッカー(CHECKER)に合わせ TF/ENT キーを押します。

2 電界強度を測定します。

電界強度が大きくなるとSメータが振れ、ビープ音のピッチが速くなります。

⚠ メモ 近くの強い電界強度を調べるため、感度は約−50dBm以上で反応します。また、周波数によって感度が変化します。

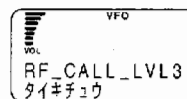
・設定値コール動作

1 ヨビダシ(CALL WAIT)画面を呼び出します。

M NAME/RFC キーを押すとRFチェックメニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をヨビダシ(CALL WAIT)に合わせ TF/ENT キーを押します。

VFO
RF チェック
チェッカー
→ ヨビダシ

2 設定値コール動作を開始します。

ダイヤル、UP/DOWNキー、またはテンキーでレベルを設定します。レベルは1〜9から選択します。(初期設定は3です。)

設定されたレベルを超えるとベルが鳴り、ディスプレイに 🔔 が点滅します。ベルは10秒間鳴ります。🔔 は、点滅し続けます。

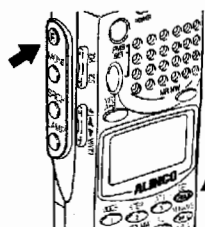
・設定値コール動作の解除

🔔 が点滅しているときは、SKIP/CLR キーを押すと、点滅を解除します。
🔔 が点滅していないときは、SKIP/CLR キー、または M NAME/RFC キーを押すと動作を解除します。

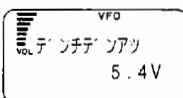
⚠ メモ 設定値コール動作時は、電源スイッチ、LAMP キーのみ有効です。

3.1.9 電池電圧表示機能

電池電圧を表示する機能です。

1 デンチ デンアツ(BATT VOLT)画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で SET HELP キーを押します。

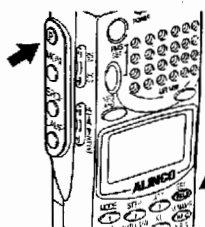
VFO
デンチデンアツ
5.4V

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ、TF ENT キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+デンチ デンアツ（+BATT VOLT）に合わせ、TF ENT キーを押します。

ディスプレイに電池電圧が表示されます。
SKIP CLR キーを押すと電池電圧表示を解除します。

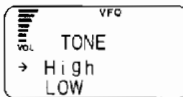
⚠ メモ
- 測定値は0.5秒ごとに更新されます。
- 外部電源接続時（10〜16V）は、「OVER 8V」と表示されます。

3.1.10 トーン音質設定

受信音の音質を2段階で設定します。

1 TONE画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で SET HELP キーを押します。

VFO
TONE
→ High
LOW

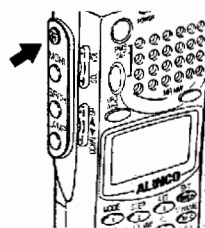
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ TF ENT キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+TONEに合わせ TF ENT キーを押します。

2 受信音の音質を設定します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をHighまたはLOWに合わせ、TF ENT キーを押します。（初期設定はHighです。）
ディスプレイがCONFIGメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ TF ENT キーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で TF ENT キーを押します。）

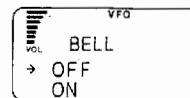
⚠ メモ SKIP CLR キーでCONFIGメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

3.1.11 ベル機能の設定

スケルチが解除されたときにベルを鳴らす機能です。

1 BELL画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で SET HELP キーを押します。

VFO
BELL
→ OFF
ON

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ TF ENT キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+BELLに合わせ TF ENT キーを押します。

2 ベル機能のON/OFFを設定します。

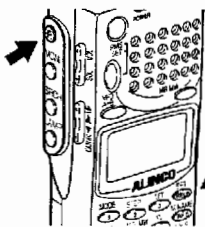
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をONまたはOFFに合わせ、TF ENT キーを押します。（初期設定はOFFです。）
スケルチが解除されると、ベルは10秒間鳴り、ディスプレイにが点滅します。SKIP CLR キーを押すと、点滅を解除します。

ディスプレイがCONFIGメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ TF ENT キーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で TF ENT キーを押します。）

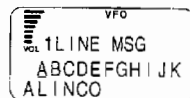
⚠ メモ SKIP CLR キーでCONFIGメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

3.1.12 イニシャルメッセージの変更

電源をONにした後に表示されるイニシャルメッセージの内容を変更することができます。

1 イニシャライズMG（OpeningMG）画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で SET HELP キーを押します。

VFO
1LINE MSG
ABCDEFGHIJK
ALINCO

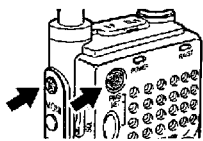
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ TF ENT キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+イニシャライズMG（+OpeningMG）に合わせ TF ENT キーを押します。

2 メッセージを入力します。
ダイヤルを回して文字を選択し、DOWNキーで決定します。UPキーを押すと決定した文字をキャンセルできます。最大36文字まで入力できます。(初期設定は、ALINCO INTELLIGENT RECEIVERです。)

3 設定を終了します。
メッセージの入力が終わったら、(TF ENT)キーを押します。

ディスプレイがCONFIGメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ(TF ENT)キーを押します。(または、(F)キーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(TF ENT)キーを押します。)

⚠ メモ
- (SKIP CLR)キーでCONFIGメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。
- メッセージを入力するとき、(F)キーを押しながらダイヤルを回すと、文字を11文字ずつ移動できます。

3.1.13 リセット機能

各種機能の設定やメモリーをリセットする機能です。リセットの種類により、工場出荷時の設定まで全てリセットしてしまう場合もありますので、ご注意ください。

(F)キーを押しながら電源をONにすると、USER RESETメニューが表示されます。

USER RESET
→+CANCEL
+SYSTEM

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を実行したいリセットの種類に合わせ(TF ENT)キーを押します。
各項目のリセット内容は次のとおりです。

CANCEL　リセットをキャンセルします。

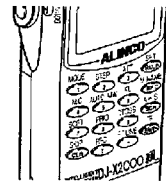
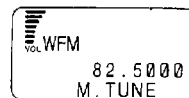
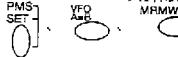
SYSTEM　DJ-X2000を購入後に設定した各種機能の設定をリセットします。ただし、メモリーチャンネルは消去されません。(通常はこれを選択してください。)

ALL　工場出荷時の各種設定、EEPROMメモリー、録音ICデータなど、全ての設定をリセットします。

⚠ 注意　ALLリセットには時間がかかります。リセット動作中は電源をOFFにしないでください。

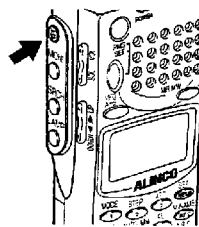
3.1.14 PMS/MRモードでの周波数調整(M. TUNE)

PMSまたはMRモードでの運用中、VFOモードに戻らなくても周波数を調整することができます。

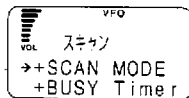
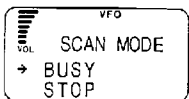
- 周波数の調整

PMSまたはMRモードでの運用中に、(TF ENT)キーを押すと、ディスプレイにM. TUNEと表示されます。ダイヤルまたはUP/DOWNキーで周波数を調整します。

- M. TUNEの解除

(PMS SET)、(VFO A-B)、(MRMW)のいずれかのキーを押します。

3.1.15 スキャン再開条件の設定(スキャンモード)

スキャン中に信号を受信するとスキャンが一時停止しますが、この設定によりどのようなときにスキャンを再開するかを設定できます。

1 スキャンメニューを呼び出します。

(F)キーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(SET HELP)キーを押します。

スキャン
→+SCAN MODE
+BUSY Timer

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ(TF ENT)キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+スキャン(+SCAN SETUP)に合わせ(TF ENT)キーを押します。

2 SCAN MODE画面を呼び出します。
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+SCAN MODEに合わせ(TF ENT)キーを押します。

3 スキャン再開条件を選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したい項目に合わせ、TF ENTキーを押します。各項目の動作は次のとおりです。(初期設定はBUSYです。)

BUSY　信号が出ている周波数があると、その周波数を受信し続けます。信号がなくなると、スキャンを再開します。

STOP　一度信号が出ている周波数を受信すると、スキャンを再開しません。

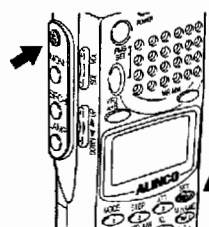
TIMER　信号が出ている周波数を受信すると一定時間スキャンを停止します。一定時間経過すると、信号を受信中でもスキャンを再開します。停止時間の設定については『3.1.17 スキャンポーズ時間の設定』(P.45)をお読みください。

ディスプレイがスキャンメニューに戻るので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をENDに合わせTF ENTキーを押します。(または、Fキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でTF ENTキーを押します。)

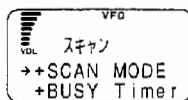
メモ　SKIP CLRキーでスキャンメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

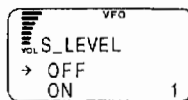
3.1.16 Sメータレベル

スキャン中に、どのレベル以上の信号を受信したときにスキャンが停止するかを設定できます。

1 スキャンメニューを呼び出します。

Fキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でSET HELPキーを押します。

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせTF ENTキーを押します。

CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+スキャン(+SCAN SETUP)に合わせTF ENTキーを押します。

2 S_LEVEL画面を呼び出します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+S_LEVELに合わせTF ENTキーを押します。

3 Sメータレベルを選択します。

UP/DOWNキーで、矢印をONに合わせ、ダイヤルで1～7からレベルを選択し、TF ENTキーを押します。Sメータレベルを設定しない場合はOFFを選択し、TF ENTキーを押します。(初期設定はOFFです。)

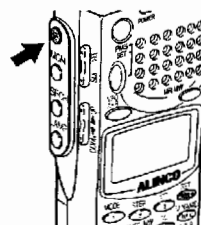
レベルが高いほど、スキャンの停止に強い信号が必要となります。

ディスプレイがスキャンメニューに戻るので、矢印をENDに合わせTF ENTキーを押します。(または、Fキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でTF ENTキーを押します。)

メモ　SKIP CLRキーでスキャンメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

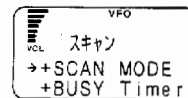
3.1.17 スキャンポーズ時間の設定

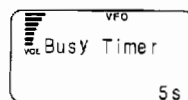
タイマースキャン動作時の、スキャンの停止時間を設定することができます。

1 スキャンメニューを呼び出します。

VFO
ｽｷｬﾝ
→+SCAN MODE
+BUSY Timer

Fキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でSET HELPキーを押します。

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせTF ENTキーを押します。

CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+スキャン(+SCAN SETUP)に合わせTF ENTキーを押します。

2 BUSY Timer画面を呼び出します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+BUSY Timerに合わせTF ENTキーを押します。

3 スキャンポーズ時間を設定します。

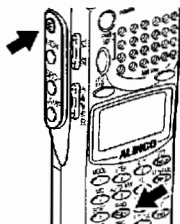
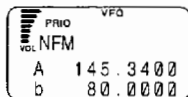
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、スキャンポーズ時間(1～12秒)を設定し、TF ENTキーを押します。(初期設定は5sです。)

ディスプレイがスキャンメニューに戻るので、矢印をENDに合わせTF ENTキーを押します。(または、Fキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でTF ENTキーを押します。)

メモ　SKIP CLRキーでスキャンメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

3.1.18 プライオリティ機能

2つの周波数を交互に受信し、待ち受けを効率良くする機能です。
現在受信中のチャンネルを一定時間受信するごとに、プライオリティーチャンネルを瞬間的に受信し、受信状態をチェックできます。プライオリティの各種設定については、『3.1.19 プライオリティ動作条件の設定』(P.46)、『3.1.20 プライオリティチャンネルの設定』(P.47)、『3.1.21 プライオリティインターバルの設定』(P.48) をお読みください。

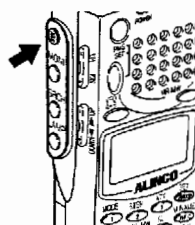
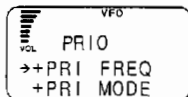
• プライオリティ機能をONにする

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で PRIO(8) キーを押します。ディスプレイ上部にプライオリティ機能がONであることを示すPRIが表示されます。
(初期設定はOFFです。)

• プライオリティをOFFにする

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で PRIO(8) キーを押します。ディスプレイ上部のPRIが消え、プライオリティ機能がOFFになったことを示します。

⚠ メモ　プライオリティが設定されているときは、チャンネルスコープモードは動作しません。

3.1.19 プライオリティ動作条件の設定

プライオリティ機能動作中、プライオリティ側のチャンネルで信号を受信したときのDJ-X2000の動作を設定します。

1 PRIOメニューを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET(HELP) キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PRIOに合わせ TF(ENT) キーを押します。

2 PRI MODE画面を呼び出します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PRI MODEに合わせ TF(ENT) キーを押します。

3 プライオリティ動作条件を選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したい項目に合わせ、TF(ENT) キーを押します。各項目の動作は次のとおりです。(初期設定はSTOPです。)

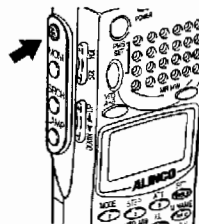
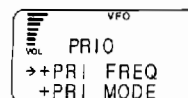
BUSY	プライオリティ側で信号を受信すると、その信号が消えるまでプライオリティ側の周波数を受信し続けます。
STOP	プライオリティ側で信号を受信すると、その信号が消えてもプライオリティ側の周波数を受信し続けます。
TIMER	プライオリティ側で信号を受信すると一定時間その信号を受信します。時間の設定については、『3.1.21 プライオリティインターバルの設定』(P.48) をお読みください。

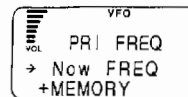
ディスプレイがPRIOメニューに戻るので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をENDに合わせ TF(ENT) キーを押します。(または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で TF(ENT) キーを押します。)

⚠ メモ　SKIP(CLR) キーでPRIOメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

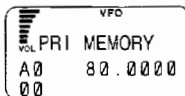
3.1.20 プライオリティチャンネルの設定

プライオリティチャンネルの設定をします。この設定を有効にするには、プライオリティ機能をONにする必要があります。

1 PRIOメニューを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET(HELP) キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PRIOに合わせ TF(ENT) キーを押します。

2 PRIO FREQメニューを呼び出します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PRIO FREQに合わせ TF(ENT) キーを押します。

3 Pri MEMORY画面を呼び出します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MEMORYに合わせ TF ENT キーを押します。

PRI MEMORY
A0　80.0000
00

4 チャンネルを設定します。

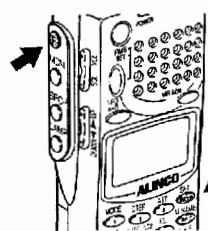
設定したいメモリーバンクとチャンネルを選択し、TF ENT キーを押します。
メモリーバンクは F.TUNE ・ キーでA〜E、ダイヤルまたはテンキーでバンクNo.を選択できます。UP/DOWNキーを押すとカーソルが移動し、ダイヤルまたはテンキーでチャンネルNo.を選択できます。

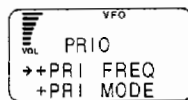
ディスプレイがPRI FREQメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ TF ENT キーを押します。（または、F キーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で TF ENT キーを押します。）

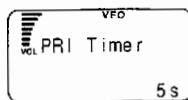
メモ
- 現在受信中の周波数をプライオリティチャンネルに設定するには、手順2でNow FREQに矢印を合わせ、TF ENT キーを押します。（初期設定はNow FREQです。）
  また、NOW Priに矢印を合わせ、TF ENT キーを押すと、現在プライオリティに設定されている周波数を表示します。
- SKIP CLR キーでPRI FREQメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

3.1.21 プライオリティインターバルの設定

プライオリティ動作をおこなう間隔を設定します。

1 PRIOメニューを呼び出します。

F キーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET HELP キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PRIOに合わせ TF ENT キーを押します。

PRIO
→+PRI FREQ
+PRI MODE

2 PRI Timer画面を呼び出します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PRI Timerに合わせ TF ENT キーを押します。

3 プライオリティインターバルを設定します。

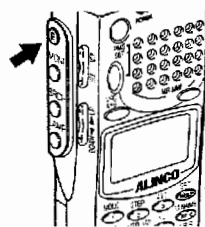
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、1秒単位で1〜12秒の範囲で設定し、TF ENT キーを押します。（初期設定は5sです。）

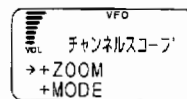
ディスプレイがPRIOメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ TF ENT キーを押します。（または、F キーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で TF ENT キーを押します。）

メモ　SKIP CLR キーでPRIOメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

3.1.22 サーチ再開条件の設定

サーチ機能（チャンネルスコープ）動作時は、一定時間間隔でサーチをおこなうため、サーチしている間は音が途切れます。
サーチ再開条件を設定することにより、チャンネルスコープが実行される間隔を設定することができます。

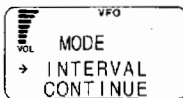
1 チャンネルスコープ（CH SCOPE）メニューを呼び出します。

F キーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET HELP キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ TF ENT キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+チャンネルスコープ（+CH SCOPE）に合わせ TF ENT キーを押します。

ﾁｬﾝﾈﾙｽｺｰﾌﾟ
→+ZOOM
+MODE

2 MODE画面を呼び出します。

矢印を+MODEに合わせ TF ENT キーを押します。

3 サーチ再開条件を選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したい項目に合わせ (TF/ENT) キーを押します。各項目の動作は次のとおりです。（初期設定はINTERVALです。）

SINGLE	(SRCH) キーを押すと一度だけサーチを実行します。一度サーチ機能を解除して再度 (SRCH) キーを押すまで、次のサーチは実行されません。
INTERVAL	約10秒に一度サーチを実行し、グラフを更新します。サーチ中は音が出ません。
CONTINUE	サーチを連続的に実行し、グラフも随時更新されます。サーチ中は音が出ません。

ディスプレイがチャンネルスコープメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ (TF/ENT) キーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で (TF/ENT) キーを押します。）

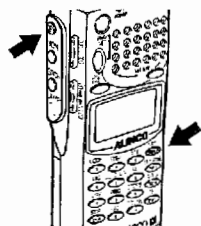
 メモ (SKIP/CLR) キーでチャンネルスコープメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

3.1.23 瞬間同調機能

電波周波数を調べ、その周波数にDJ-X2000を自動的にセットするため、未知の電波も瞬時に同調受信できます。

• 瞬間同調機能の設定

瞬間同調機能にはフラッシュチューンとF.カウンターの2つのモードがあります。

1 F TUNE画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で (SET/HELP) キーを押します。

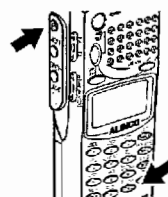
VFO
F TUNE
→ F TUNE
F.カウンター

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+SPECIALに合わせ (TF/ENT) キーを押します。
SPECIALメニューが表示されるので、矢印を+F TUNE（+FLASH TUNE）に合わせ (TF/ENT) キーを押します。

2 瞬間同調機能を設定します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したい項目に合わせ (TF/ENT) キーを押します。（初期設定はF TUNEです。）

F TUNE（FLASH TUNE）	瞬時に電波周波数を調べ、その周波数にDJ-X2000を自動的にセットします。
F.カウンター（F.COUNTER）	電波周波数を調べ、その周波数をリアルタイムで表示します。（周波数分解能は100Hzです。）

• 瞬間同調機能の動作

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で (F TUNE) キーを押すと、カウンター同調機能の動作を開始します。

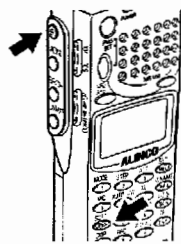
(SKIP/CLR) キーを押すと、瞬間同調機能を解除します。

⚠ メモ
- 瞬間同調機能およびカウンター機能の動作周波数は約50MHz～1300MHzです。約−30dB以上の入力で動作しますが、目的の電波より強い電波またはノイズがある場合など、周波数条件により動作しないことがあります。
- デジタル無線などの0.1秒以下の断続電波には対応していません。
- 1KHz以上変化している電波では、瞬間同調機能は動作しません。
- PMSまたはMRモードでスキャン中に瞬間同調機能を設定すると、スキャンは解除されます。

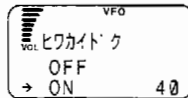
3.1.24 秘話解読機能

秘話反転された音声を解読する機能です。

 メモ　秘話解読できる電波型式はNFMのみです。

1　ヒワカイドク(SET SCRAMBLE)画面を呼び出し、秘話解読機能をONにします。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに🄵を表示した状態で(SCRT 7)キーを押します。

ヒワカイドク(SET SCRAMBLE)画面が表示されるので、UP/DOWNキーで、矢印をONに合わせます。

VFO
ヒワカイドク
OFF
→ ON　40

2　キャリアを調整します。

矢印をONに合わせた状態で、ダイヤルでキャリアを調整しながら、音声が認識できる状態に合わせます。キャリアは、0～125の範囲で増減できます。(初期設定は40です。)

矢印をONに合わせた状態で(TF ENT)キーを押すと、秘話解読機能を動作した状態で通常表示になります。

• 秘話解読機能の解除

(SKIP CLR)キーを押すと、秘話解読機能を解除します。

• CTCSSデコード機能、A/Bスケルチとの優先順位

秘話解読機能は、CTCSSデコード機能、A/Bスケルチと同時に使用できません。

- 秘話解読機能動作時にA／BスケルチをONにすると、A／Bスケルチが優先となります。
- 秘話解読機能またはA／Bスケルチ動作時は、CTCSSデコード機能は使用できません。
- CTCSSデコード機能動作時に秘話解読機能をONにすると、その間CTCSSデコード機能は解除されます。

 メモ
- 秘話解読動作中に(TF ENT)キーを押して通常表示にした場合、NFM以外の電波型式では秘話解読機能は解除されます。
- 秘話解読機能動作中でも、ディスプレイにVOLが点滅しているときは音量の調整ができます。

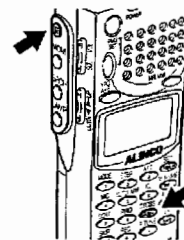
3.1.25 CTCSSデコード機能

CTCSS信号を受信する機能です。38波のCTCSS信号を受信でき、リバース受信設定もできます。タクシー無線にも対応しています。

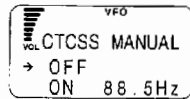
 メモ　CTCSS信号を受信できる電波型式はNFMのみです。

• CTCSS信号受信の設定

CTCSS信号の受信周波数、および受信のON/OFFを設定します。

1　CTCSS MANUAL画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに🄵を表示した状態で(CTCSS 9)キーを押します。

CTCSS SETメニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をMANUALに合わせ、(TF ENT)キーを押します。

VFO
CTCSS MANUAL
→ OFF
ON　88.5Hz

2　CTCSS信号の受信周波数を設定します。

UP/DOWNキーで矢印をONに合わせ、ダイヤルでCTCSS信号の受信周波数を設定します。

設定できる周波数の範囲は、67Hz～254Hzです。(初期設定は88.5Hzです。)

CTCSS信号を受信しないときはOFFに合わせます。

(TF ENT)キーを押して設定を完了します。

• 秘話解読機能、A/Bスケルチとの優先順位

CTCSSデコード機能は、秘話解読機能、A/Bスケルチと同時に使用できません。

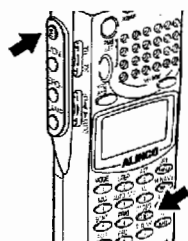
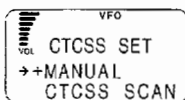
- 秘話解読機能またはA／Bスケルチ動作時は、CTCSSデコード機能は使用できません。
- CTCSSデコード機能動作時に秘話解読機能またはA／BスケルチをONにすると、その間CTCSSデコード機能は解除されます。

 メモ　PMS、MRモードでは、DIRECT WRをONに設定した場合に設定可能になります。(初期設定はOFFです。)詳細は、「3.3.31 設定の直接変更」(P.63)をお読みください。

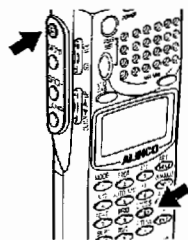
• CTCSSスキャン
CTCSS信号をスキャンしてCTCSS信号を検索する機能です。

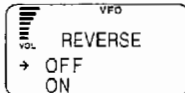
1 CTCSS SETメニューを呼び出します。

ⒻキーⒻを押し、ディスプレイに F を表示した状態で CTCSS(9) キーを押します。
CTCSS SETメニューが表示されます。

```
VFO
CTCSS SET
→+MANUAL
 CTCSS SCAN
```

2 スキャンを開始します。
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をCTCSS SCANに合わせ、TF(ENT)キーを押すと、スキャンを開始します。
CTCSSが一致すると、スキャンを停止します。

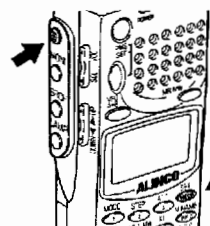
• CTCSSリバース
CTCSS動作を逆転させる機能です。ONに設定するとCTCSS周波数が一致していないときに受信し、一致したときに受信しなくなります。

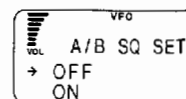
1 CTCSS REVERSE画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で CTCSS(9) キーを押します。
CTCSS SETメニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をREVERSEに合わせ、TF(ENT)キーを押します。

```
VFO
REVERSE
→ OFF
  ON
```

2 CTCSSリバースのON/OFFを設定します。
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をONまたはOFFに合わせ、TF(ENT)キーを押します。

⚠ メモ　信号が弱いときやノイズが多いときなど、動作しないことがあります。

3.1.26 A/Bスケルチ
空線信号を検知し、スケルチを動作させる機能です。

1 A/B SQ SET画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET(HELP) キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+SPECIALに合わせ TF(ENT) キーを押します。
SPECIALメニューが表示されるので、矢印を+A/B SQ SETに合わせ、TF(ENT) キーを押します。

```
VFO
A/B SQ SET
→ OFF
  ON
```

2 A/BスケルチのON/OFFを設定します。
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をONまたはOFFに合わせ、TF(ENT)キーを押します。（初期設定はOFFです。）

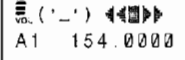
ON	空線信号に使われる2300Hzの変調信号があると、スケルチが動作し音声がミュートされます。2300Hzの変調信号がなくなると、スケルチが解除されます。
OFF	A/Bスケルチは動作しません。

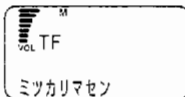
• **秘話解読機能、CTCSSデコード機能との優先順位**
A/Bスケルチは、秘話解読機能、CTCSSデコード機能と同時に使用できません。
- 秘話解読機能動作時にA／BスケルチをONにすると、A／Bスケルチが優先となります。
- 秘話解読機能またはA／Bスケルチ動作時は、CTCSSデコード機能は使用できません。
- CTCSSデコード機能動作時にA／BスケルチをONにすると、その間CTCSSデコード機能は解除されます。

⚠ メモ
- 電波または変調信号が弱いときやノイズが多いときなど、動作しないことがあります。
- 2300Hz以外の空線信号には対応していません。

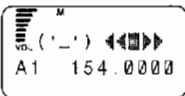
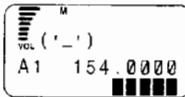
3.1.27 盗聴発見機能

ワイヤレスマイクなど電波を使った盗聴機やその設置場所を探知する機能です。盗聴があると思われる周波数を、VFO、PMSモード、またはあらかじめメモリーチャンネル、オートメモリーチャンネルで登録しておき、その周波数をスキャンし、検出します。また、バンクリンクや、チャンネルスキップの設定も有効となります。

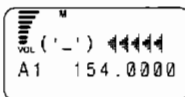
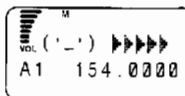
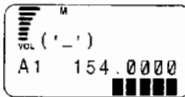
1 盗聴発見機能をONにします。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で TF/ENT キーを押します。
盗聴発見機能の動作を開始します。
スキャン動作は、運用中の基本モードにより異なります。

TF
ミツカリマセン

VFOモード時	現在受信中の周波数から、高い周波数の方向にスキャンを開始します。ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、スキャン方向を変更します。
MRモード時	指定されたバンクのみスキャンします。バンクリンクや、チャンネルスキップの設定も有効となります。A-B.S/SCN キーを押すとスキャンを開始します。
PMSモード時	指定されたスキャンプログラム範囲内のみスキャンします。

2 盗聴の有無を調べます。

その状態で、音量と本体の向きを調整します。盗聴機があると判断すると、ディスプレイが図のように変わります。

3 DJ-X2000をゆっくり動かしながら盗聴機に近づけ、設置場所を探します。

ディスプレイの変化で、盗聴機の場所や盗聴機までの距離を確認できます。

- DJ-X2000が盗聴機に近づいているとき

- DJ-X2000が盗聴機から遠ざかっているとき

- ディスプレイの右下に表示される■の数で、盗聴機までの距離を確認できます。1個で約1m、5個で5m以上離れていることを示します。

メモ　指定した範囲のスキャンを終了しても、盗聴が見つからない場合は、ミツカリマセン（NO FOUND）と表示されます。

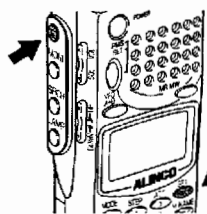
注意
- 通常盗聴機の音声モニター有効範囲は1～5m程度です。
- 盗聴発見機能の動作は盗聴機の電波の強さ、マイク感度に大きく影響され、また周囲の環境により（エコーが多い所など）誤動作または使用できないことがあります。
- 盗聴機探知中にDJ-X2000を急に動かすと、ドプラー効果により誤動作します。
- スピーカーの向きと盗聴機の位置の関係で、正常に動作しないことがあります。
- 2300Hzの変調がある電波受信時は、正常に動作しません。

3.1.28 録音機能

受信音、マイクからの音をICに録音する機能です。最大160秒まで録音でき、何度でも繰り返し録音、再生、消去できます。

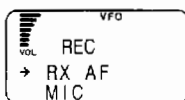
• ソースの設定

受信音を録音するか、マイクからの音を録音するかを設定します。

1 REC画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(SET/HELP)キーを押します。

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+SPECIALに合わせ(TF/ENT)キーを押します。

SPECIALメニューが表示されるので、矢印を+RECに合わせ(TF/ENT)キーを押します。

```
VFO
REC
→ RX AF
MIC
```

2 受信音またはマイクを選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したい項目に合わせ(TF/ENT)キーを押します。(初期設定はMICです。)

RX AF	受信音を録音します。
MIC	マイクからの音を録音します。

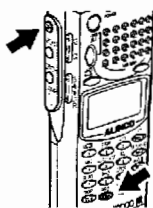
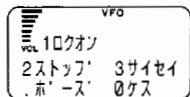
ディスプレイがSPECIALメニューに戻るので、矢印をENDに合わせⒻキーを押します。(または、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(TF/ENT)キーを押します。)

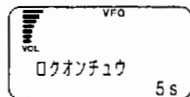
• 録音方法

1 録音画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(REC/0)キーを押します。

録音画面が表示されます。

```
VFO
1ロクオン
2ストップ' 3サイセイ
.ポ'ーズ' 0ケス
```

2 録音を開始します。

(MODE/1)キーを押すと録音を開始し、経過時間がディスプレイに表示されます。最大160秒までの録音が可能です。

3 停止またはポーズします。

(STEP/2)キーを押すと、録音を停止します。

(F.TUNE/・)キーを押すと、録音をポーズ(一時停止)します。再度(F.TUNE/・)キーを押すと、録音を再開します。

また、録音時間が160秒に達すると、ディスプレイにオワリ(END)と表示され自動的に録音を停止します。

4 録音モードを終了します。

(SKIP/CLR)キーを押します。

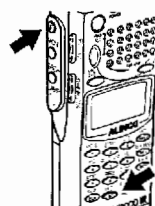
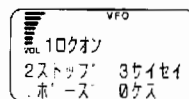
メモ
- 録音できる音は1件のみです。
- 録音動作中は、他の機能は使用できません。
- 録音モードでも音量は調整できます。
- 録音できる回数は、約1万回です。
- RX AFの録音はスケルチが開いた時点から開始します。

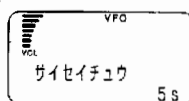
• 再生方法

1 録音画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(REC/0)キーを押します。

録音画面が表示されます。

```
VFO
1ロクオン
2ストップ' 3サイセイ
.ポ'ーズ' 0ケス
```

2 再生を開始します。

(ATT/3)キーを押すと再生を開始し、経過時間がディスプレイに表示されます。

3 停止またはポーズします。

(STEP/2)キーを押すと、再生を停止します。

(F.TUNE/・)キーを押すと、再生をポーズ(一時停止)します。再度(F.TUNE/・)キーを押すと、再生を再開します。

また、録音内容を全て再生すると、ディスプレイにオワリ(END)と表示され自動的に再生を停止します。

4 録音モードを終了します。

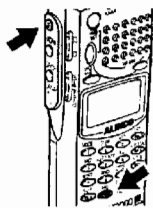
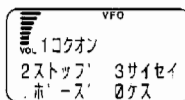
(SKIP/CLR)キーを押します。

メモ
- 再生中は、他の機能は使用できません。
- 録音データの保存には電池バックアップは必要ありません。
- ALLリセットをすると、録音データは消去されます。

• 消去方法

1 録音画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(REC 0)キーを押します。
録音画面が表示されます。

```
VFO
1コクオン
2ストップ'  3サイセイ
.ホ'ーズ'  0ケス
```

2 録音内容を消去します。
(REC 0)キーを押すと録音内容が消去されます。

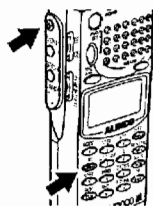
3 録音モードを終了します。
(SKIP CLR)キーを押します。

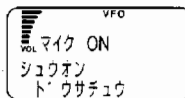
3.1.29 集音機能

マイクからの音を増幅してイヤフォンまたは外部スピーカーで聞くことができます。

• 集音機能の動作

1 本体上面のSP端子に、イヤフォンまたは外部スピーカーを接続します。

2 集音動作を開始します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(MIC 4)キーを押します。
集音機能が動作します。

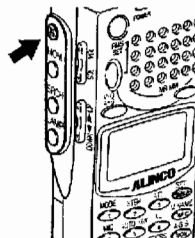
```
VFO
マイク ON
シュウオン
 ト'ウサチュウ
```

• 集音機能の解除
(SKIP CLR)キーを押します。

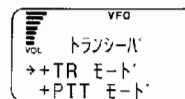
メモ
• イヤフォンまたは外部スピーカーを接続しないと、集音機能は動作しません。接続せずに動作させようとすると、ビープ音が鳴り、イヤフォンサシテクダサイ（INSERT EARPHONE）と表示されます。
• 集音機能動作中は、電源スイッチ、VOLキー、(SKIP CLR)キーのみ有効です。
• ハウリングがある場合、音量を小さくするか、イヤフォンまたは外部スピーカーをマイクから離してください。

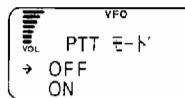
3.1.30 トランシーバー機能

DJ-X2000をトランシーバーとして使用できる機能です。本体左側の(SRCH)キーがPTT（Press to Talk）キーとなります。

• トランシーバーモードへの移行

1 トランシーバ（TRANCEIVER）画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(SET HELP)キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+SPECIALに合わせ(TF ENT)キーを押します。
SPECIALメニューが表示されるので、矢印を+トランシーバ（+TRANCEIVER）に合わせ(TF ENT)キーを押します。

```
VFO
 トランシーバ'
→+TR モート'
 +PTT モート'
```

2 PTT（SRCH）キーの動作を設定します。
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PTTモード（+PTT MODE）に合わせ、(TF ENT)キーを押します。
PTTモード画面が表示されるので、矢印をOFFまたはONに合わせ、(TF ENT)キーを押します。

```
VFO
 PTT モード
→ OFF
  ON
```

OFF	PTT（SRCH）キーを押している間、送信になります。
ON	PTT（SRCH）キーを押す毎に、送信、受信を切り替えます。

ディスプレイがトランシーバ（TRANCEIVER）メニューに戻ります。

3 トランシーバー機能を動作します。
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+TRモード（+TR MODE）に合わせ(TF ENT)キーを押します。
トランシーバー機能が動作します。

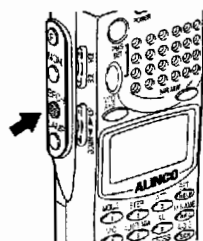
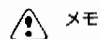
● 送信と受信

1 受送信周波数を設定します。

周波数は、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで設定できます。ただし、次のような制限があります。

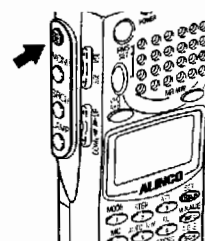
電波型式	NFMのみ
周波数	250.000MHz~259.975MHz
周波数ステップ	25kHzに固定

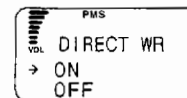
Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態では、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、250kHz単位で周波数を増減できます。

2 送信します。

トランシーバーモードでは、本体左側の SRCH キーがPTTキーの役割をします。
PTTキーがONの状態でマイクに向かって話すと、現在受信中の周波数に対して送信できます。
PTTキーは設定により、動作方法（ON/OFF）を選択することができます。

⚠ メモ
- 微弱送信のため、アマチュア無線などの免許は必要ありません。
- 微弱送信のため、BNCコネクターのアンテナには、微弱送信のアンテナは接続されていません。

3.1.31 設定の直接変更

MRモード、PMSモードで、電波型式、周波数ステップ、アッテネーター、CTCSSデコード機能の設定の直接変更を許可/禁止する機能です。
ONに設定すると、そのとき表示しているMRモード、PMSモードで、電波型式、周波数ステップ、アッテネーター、CTCSSデコード機能の設定を直接変更できます。

1 DIRECT WR画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で SET/HELP キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+CONFIGに合わせ TF/ENT キーを押します。
CONFIGメニューが表示されるので、矢印を+DIRECT WRに合わせ TF/ENT キーを押します。

PMS
DIRECT WR
→ ON
OFF

2 DIRECT WRITEのON/OFFを設定します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をONまたはOFFに合わせ TF/ENT キーを押します。（初期設定はOFFです。）
ディスプレイがCONFIG画面に戻るので、矢印をENDに合わせ TF/ENT キーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で TF/ENT キーを押します。）

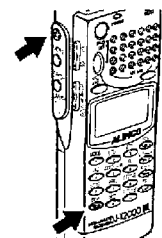
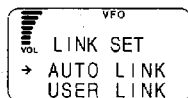
⚠ メモ　SKIP/CLR キーでCONFIGメニューから抜けると、変更した設定内容は解除されます。

3.2 VFOモードの機能

VFOモードの各機能について説明しています。

3.2.1 VFOリンク機能

受信中のVFOの周波数の変化に連動して、もうひとつのVFOの周波数も変化する機能です。

1 LINK SET画面を呼び出します。

VFOのバンドA、Bの周波数を設定します。
Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でSKIP CLRキーを押します。

2 VFOリンク機能の種類を設定をします。

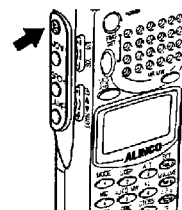
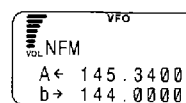
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで矢印を設定したい項目に合わせ、TF ENTキーを押します。（初期設定はLINK OFFです。）

AUTO LINK	A、Bバンドの周波数が、オートリンク設定によってあらかじめ設定された間隔でリンクし、変化します。
USER LINK	A、B両方のバンドが大文字で表示され、VFOリンク機能が動作します。ディスプレイ上段の周波数を変えると、下段の周波数も連動して変化します。
LINK OFF	VFOリンク機能を解除します。

⚠ メモ　上段の周波数を変えることによって、下段の周波数が2149.999950MHz（DJ-X2000の受信周波数の上限）を超えることがあります。この場合、VFO A≡B キーを押すとA、Bのバンドが切り替わります。上段に表示されていたバンドは、周波数を保持した状態で下段に移ります。下段（2149.9999MHzを超えていたほう）に表示されていたバンドは、上段と下段の周波数の差を保持した状態で、0.1MHz~2149.9999MHzの範囲内に取り込まれ、上段に移ります。VFOリンクは解除されません。

3.2.2 ABスキャン

VFOモードで現在表示されている2つの周波数間をスキャンします。これをABスキャンと呼びます。

• **ABスキャンの実行**

VFOのバンドA、Bの周波数を設定します。
Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でA-BS SCNキーを押します。
A、Bの間でスキャンを開始し、ディスプレイの両方のバンドに矢印が表示されます。

スキャン方向を変更するには、ダイヤルを回すか、UP/DOWNキーを押します。

• **ABスキャンの解除**

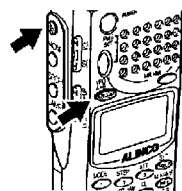
ABスキャンを解除するにはA-BS SCNキーを押します。

3.2.3 メモリーからの周波数コピー

メモリーに登録されている周波数を呼び出してVFOモードで使用することができます。

1 メモリーの周波数を呼び出します。

MR MWキーを押し、MRモードにします。VFOモードで使用したいチャンネルを呼び出します。

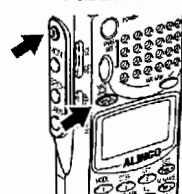
2 周波数をVFOにコピーします。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でVFO A≡Bキーを押します。選択したチャンネルの周波数が、VFOの上段に表示されます。

3.2.4 PMSからの周波数コピー

PMSに登録されている周波数を呼び出してVFOモードで使用することができます。

1 メモリーの周波数を呼び出します。

PMS SET キーを押し、PMSモードにします。VFOモードで使用したい周波数のバンクNo.を呼び出します。

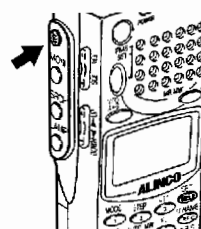
2 周波数をVFOにコピーします。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でVFO キーを押します。選択したチャンネルの周波数が、VFOの上段に表示されます。

3.3 PMSモードの機能

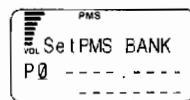
PMSモードの各機能について説明しています。

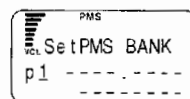
3.3.1スキャンプログラムの登録

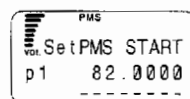
PMSモードで使用するスキャンプログラムの登録方法について説明しています。

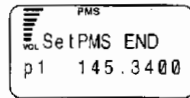
1 PMS SET画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でSET/HELPキーを押します。

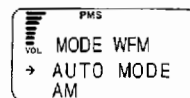
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PMSに合わせ、TF/ENTキーを押します。

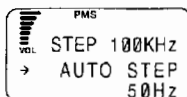
PMSメニューが表示されるので、矢印をPMS SETに合わせ、TF/ENTキーを押します。

2 スキャンプログラムを保存するバンクを設定します。

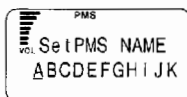
スキャンプログラムを保存するバンクをダイヤルまたはテンキーで設定し、TF/ENTキーを押します。(F TUNE キーを押すと大文字のPと小文字のpが切り替わります。)

3 スキャンを開始する周波数を設定します。

スキャンを開始する周波数をテンキーで入力し、TF/ENTキーを押します。

4 スキャンを終了する周波数を設定します。

スキャンを終了する周波数をテンキーで入力し、TF/ENTキーを押します。

5 電波型式を選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したい電波型式に合わせ、TF/ENTキーを押します。

6 周波数ステップを選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を設定したい周波数ステップに合わせ、ENTキーを押します。

7 プログラムに名前をつけます。

ダイヤルを回して文字を選択し、DOWNキーで決定します。UPキーを押すと決定した文字をキャンセルできます。最大8文字までの名前をつけることができます。

8 スキャンプログラムを保存します。

名前の入力が終わったら、ENTキーを押します。ディスプレイがPMSメニューに戻るので、矢印をENDに合わせENTキーを押します。(または、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でENTキーを押します。

⚠ メモ　プログラムに名前を付けるとき、Ⓕキーを押しながらダイヤルを回すと、文字を11文字ずつ移動できます。

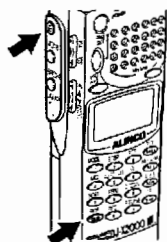
3.3.2 パス機能

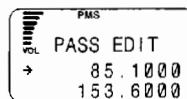
スキャン時に信号の有無に関わらずパスする周波数を設定することができます。各プログラムバンクに、パスする周波数を50まで設定できます。

• パス周波数の設定

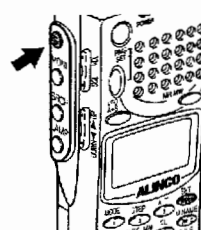
PMS SETキーを押してPMSモードにします。パス周波数を設定したいプログラムバンクを選択します。スキャンが停止したところでSKIP CLRキーを押すと、その周波数が次回からパスされます。

• パス設定の消去

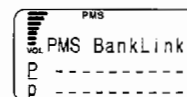
PMS
PASS EDIT
→ 85.1000
153.6000

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でSKIP CLRキーを押します。PASS EDIT画面が表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をパス設定を消去したい周波数に合わせ、SKIP CLRキーを押します。選択した周波数がディスプレイから消えます。

ENTキーを押すとPASS EDIT画面を終了します。

3.3.3 プログラムリンクの設定

複数のプログラムをリンクして、その範囲の周波数をスキャンする設定です。

1 PMS LINK画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でSET HELPキーを押します。

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PMSに合わせ、ENTキーを押します。

PMSメニューが表示されるので、矢印を+PMS LINKに合わせ、ENTキーを押します。

2 プログラムバンクNo.を設定します。

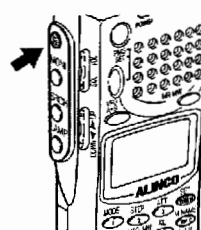
リンクさせたいプログラムのNo.をテンキーで入力します。F.TUNEキーを押すと大文字のPと小文字のpが切り替わります。全てのプログラムをリンクさせたい場合は、0~9すべてのNo.を入力します。

No.の入力が終わったらENTキーを押します。

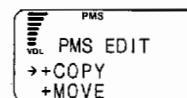
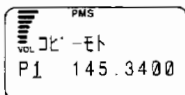
ディスプレイがPMSメニューに戻るので、矢印をENDに合わせENTキーを押します。(または、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でENTキーを押します。)

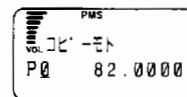
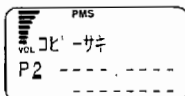
3.3.4 スキャンプログラムのコピー

ひとつのスキャンプログラムを別のプログラムにコピーすることができます。

1 PMS EDITメニューを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でSET HELPキーを押します。

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PMSに合わせ、ENTキーを押します。

PMSメニューが表示されるので、矢印を+PMS EDITに合わせ、ENTキーを押します。

2 COPY画面を呼び出します。

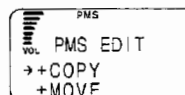
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+COPYに合わせENTキーを押します。

3 コピー元のプログラムを選択します。

ダイヤルまたはテンキーでコピー元プログラムのNo.を選択し、TF ENT キーを押します。（F TUNE ・ キーを押すと大文字のPと小文字のpが切り替わります。）

PMS
ｺﾋﾟ-ﾓﾄ
P1　145.3400

4 コピー先のプログラムを選択します。

ダイヤルまたはテンキーでコピー先プログラムのNo.を選択し、TF ENT キーを押します。（F TUNE ・ キーを押すと大文字のPと小文字のpが切り替わります。）

設定をやり直すには SKIP CLR キーを押します。

ディスプレイがPMS EDITメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ TF ENT キーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で TF ENT キーを押します。）

3.3.5 スキャンプログラムの移動

選択したスキャンプログラムを別のプログラムNo.に移動することができます。

1 PMS EDITメニューを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET HELP キーを押します。

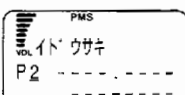
PMS
PMS EDIT
→+COPY
+MOVE

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PMSに合わせ、TF ENT キーを押します。

PMSメニューが表示されるので、矢印を+PMS EDITに合わせ、TF ENT キーを押します。

2 MOVE画面を呼び出します。

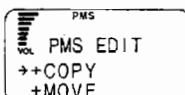
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MOVEに合わせ TF ENT キーを押します。

3 移動元のプログラムを選択します。

ダイヤルまたはテンキーで移動元プログラムのNo.を選択し、TF ENT キーを押します。（F TUNE ・ キーを押すと大文字のPと小文字のpが切り替わります。）

4 移動先のプログラムを選択します。

ダイヤルまたはテンキーで移動先プログラムのNo.を選択し、TF ENT キーを押します。（F TUNE ・ キーを押すと大文字のPと小文字のpが切り替わります。）

設定をやり直すには SKIP CLR キーを押します。

ディスプレイがPMS EDITメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ TF ENT キーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で TF ENT キーを押します。）

3.3.6 スキャンプログラムの消去

登録したスキャンプログラムの消去方法について説明しています。

1 PMS EDITメニューを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で SET HELP キーを押します。

PMS
PMS EDIT
→+COPY
+MOVE

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+PMSに合わせ、TF ENT キーを押します。

PMSメニューが表示されるので、矢印を+PMS EDITに合わせ、TF ENT キーを押します。

2 DEL画面を呼び出します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+DELに合わせ TF ENT キーを押します。

3 消去したいプログラムを選択します。

ダイヤルまたはテンキーで消去したいプログラムのNo.を選択し、TF ENT キーを押します。（F TUNE ・ キーを押すと大文字のPと小文字のpが切り替わります。）

ディスプレイがPMS EDITメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ TF ENT キーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに F を表示した状態で TF ENT キーを押します。）

3.4 MRモードの機能

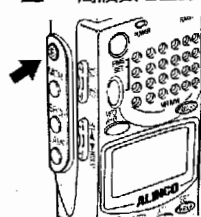
MRモードの各機能について説明しています。

3.4.1 周波数の登録

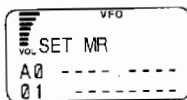
選択した周波数をメモリーチャンネルに登録する機能です。

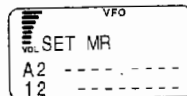
1　VFOモードで、メモリーチャンネルに登録したい周波数を設定します。

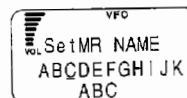
VFO A⇔B キーを押し、VFOモードにします。ディスプレイ上段（現在受信中のバンド）に登録したい周波数を表示させます。

2　周波数を登録したいバンクのNo.を選択します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でMRMWキーを押すと、SET MR画面が表示されます。

ダイヤルまたはテンキーでバンクNo.を選択し、DOWNキーを押します。（F TUNEキーを押すとバンクグループA〜Eが切り替わります。）

```
VFO
SET MR
A0 ---.----
01 --------
```

3　メモリーチャンネルを選択します。

ダイヤルまたはテンキーで、周波数を登録したいチャンネルNo.を選択し、TF ENTキーを押します。

4　メモリーチャンネルに名前をつけます。

ダイヤルを回して文字を選択し、DOWNキーで決定します。UPキーを押すと決定した文字をキャンセルできます。最大8文字までの名前をつけることができます。

5　メモリーチャンネルを保存します。

名前の入力が終わったら、TF ENTキーを押します。周波数が選択したメモリーチャンネルに保存され、VFOモードに戻ります。

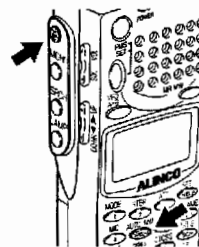
⚠ メモ
- VFOモードで設定されている電波型式、周波数ステップ、アッテネーター、CTCSSデコード機能の設定情報が、メモリーチャンネルに登録されます。
- メモリーチャンネルに名前を付けるとき、Ⓕキーを押しながらダイヤルを回すと、文字を11文字ずつ移動できます。

3.4.2 オートメモリーライト機能の設定

PMSモードでスキャン中に受信した周波数を、自動的にメモリーバンクに登録する機能です。

1　スキャンプログラムを呼び出します。

PMS SETキーを押し、PMSモードにします。プログラムバンクNo.を選択するとプログラムスキャンを開始します。

2　オートメモリーライト機能を設定します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でAUTO MW 5キーを押すと、オートメモリーライト（AUTO MW）画面が表示されます。

UP/DOWNキーで、矢印をSTARTに合わせ、ダイヤルでプログラムバンクを選択します。

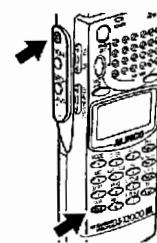
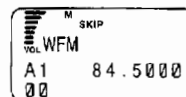
TF ENTキーを押すと、プログラムスキャンを開始し、受信した周波数を、自動的に選択したメモリーバンクに登録します。

オートメモリーライトを中止するには、オートメモリーライト（AUTO MW）画面で矢印をSTOPに合わせ、TF ENTキーを押します。

⚠ メモ　PMSモードで設定されている電波型式、周波数ステップ、アッテネーター、CTCSSデコード機能の設定情報が、メモリーチャンネルに登録されます。

3.4.3 メモリースキャンスキップ機能の設定

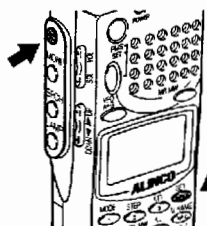
MRモードでスキャン時、スキップしたいチャンネルを設定することができます。信号の有無に関わらず、メモリースキャン時にスキャンが停止しなくなります。

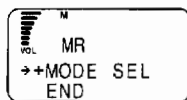
- **メモリーチャンネルのスキップ**

MRMWキーを押してMRモードにし、スキップしたいチャンネルを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でSKIP CLRキー（またはSKIP CLRキーのみ）を押すと、ディスプレイにSKIPと表示され、次回のメモリースキャンからこのチャンネルがスキップされます。

再度SKIP CLRキーを押すと、スキップの設定を解除できます。

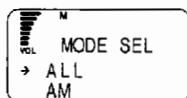
3.4.4 モードセレクトスキャンの設定

指定した電波型式のメモリーチャンネルのみを選択してスキャンする機能です。

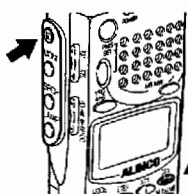
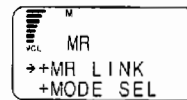
1 MODE SEL画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに[F]を表示した状態で(SET/HELP)キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MRに合わせ(TF/ENT)キーを押します。
MRメニューが表示されるので、矢印を+MODE SELに合わせ(TF/ENT)キーを押します。

MR
→+MODE SEL
END

2 スキャンの対象となる電波型式を選択します。

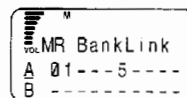
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印をスキャンの対象となる電波型式の項目に合わせ、(TF/ENT)キーを押します。電波型式は、ALL、AM、NFM、WFM、USB、LSB、CWから選択できます。ALLを選択すると、電波型式に関係なく全てのチャンネルがスキャンの対象となります。（初期設定はALLです。）

ディスプレイがMRメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ(TF/ENT)キーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに[F]を表示した状態で(TF/ENT)キーを押します。）

3.4.5 バンクリンク機能の設定

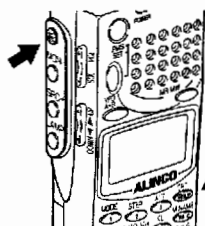
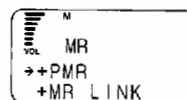
指定したメモリーバンクをリンクさせて、スキャンの対象とする機能です。

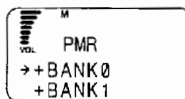
1 MR LINK画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに[F]を表示した状態で(SET/HELP)キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MRに合わせ(TF/ENT)キーを押します。
MRメニューが表示されるので、矢印を+MR LINKに合わせ(TF/ENT)キーを押します。

2 スキャンの対象となるメモリーバンクを選択します。

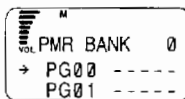
テンキーでリンクさせたいバンクのNo.を指定します。(F TUNE ・)キーを押すとバンクグループA~Eが切り替わります。全てのメモリーバンクをスキャンの対象にするには、0~9全てのバンクを選択します。バンクの指定が終わったら(TF/ENT)キーを押します。

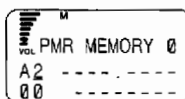
ディスプレイがMRメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ(TF/ENT)キーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに[F]を表示した状態で(TF/ENT)キーを押します。）

3.4.6 メモリースキャンチャンネルの設定

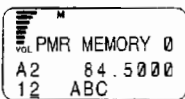
指定したメモリーチャンネルのみスキャンの対象とすることができます。スキャンするメモリーチャンネルは200チャンネル（20プログラム×10バンク）まで指定することができます。メモリースキャンを実行するには、Ⓕキーを押し、ディスプレイに[F]を表示した状態で(A-B S/SCN)キーを押します。

1 PMR画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに[F]を表示した状態で(SET/HELP)キーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MRに合わせ(TF/ENT)キーを押します。
MRメニューが表示されるので、矢印を+PMRに合わせ(TF/ENT)キーを押します。

2 メモリースキャンチャンネルを設定するプログラムバンクを選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、設定したいプログラムバンクに矢印を合わせ、ENTキーを押します。

3 メモリースキャンチャンネルを設定するプログラムNo.を選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、設定したいプログラムNo.に矢印を合わせ、ENTキーを押します。

4 メモリーバンクを設定します。

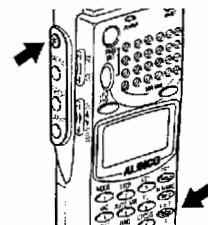
メモリーバンクを設定し、ENTキーを押します。
ダイヤルまたはテンキーでメモリーバンクNo.を設定します。（F.TUNEキーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。DOWNでカーソルをチャンネルの位置に移動します。）

5 メモリーチャンネルを設定します。

ダイヤルまたはテンキーでメモリーチャンネルNo.を設定し、ENTキーを押します。（設定をキャンセルするにはCLRキーを押します。）

手順2～5を繰り返し、スキャンの対象となるチャンネルを全て登録してからENTキーを押します。

ディスプレイがPMR BANKメニューに戻るので、矢印をENDに合わせENTキーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でENTキーを押します。）

3.4.7 PMRで設定したメモリーチャンネルのスキャン

PMRで設定したメモリーチャンネルのみスキャンする機能です。（『3.4.6 メモリースキャンチャンネルの設定』（P.75）参照）

• PMRで設定したメモリーチャンネルのみスキャンする

MRモードで、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でSCNキーを押します。PMRで設定したメモリーチャンネルのみスキャンします。
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、スキャン方向を切り替えることができます。

• スキャンの停止

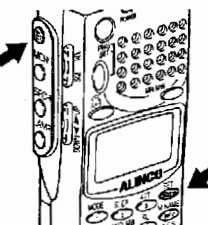
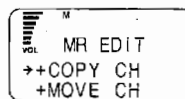
再度SCNキーを押すと、スキャンを停止します。

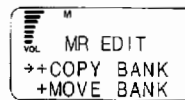
3.4.8 メモリーバンクのコピー

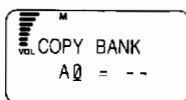
メモリーバンクに登録されたチャンネルを別のメモリーバンクにコピーすることができます。

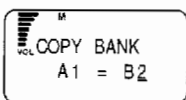
1 MR EDITメニューを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でHELPキーを押します。

M
MR EDIT
→+COPY CH
+MOVE CH

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MRに合わせENTキーを押します。
MRメニューが表示されるので、矢印を+MR EDITに合わせENTキーを押します。

2 COPY BANK画面を呼び出します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+COPY BANKに合わせENTキーを押します。

3 コピー元のメモリーバンクを選択します。

ダイヤルまたはテンキーでコピー元のバンクNo.を選択し、(TF/ENT)キーを押します。（(F TUNE)キーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。）

4 コピー先のメモリーバンクを選択します。

ダイヤルまたはテンキーでコピー先のバンクNo.を選択し、(TF/ENT)キーを押します。（(F TUNE)キーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。）

設定をやり直すには(SKIP/CLR)キーを押します。

ディスプレイがMR EDITメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ(TF/ENT)キーを押します。（または、ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(TF/ENT)キーを押します。）

3.4.9 メモリーチャンネルのコピー

メモリーチャンネルに登録された周波数と名前を他のメモリーチャンネルにコピーする機能です。

1 MR EDITメニューを呼び出します。

ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(SET/HELP)キーを押します。

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MRに合わせ(TF/ENT)キーを押します。

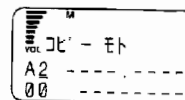
MRメニューが表示されるので、矢印を+MR EDITに合わせ(TF/ENT)キーを押します。

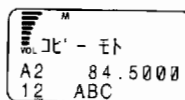
MR EDIT
→+COPY CH
+MOVE CH

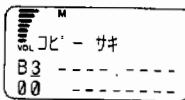
2 COPY CH画面を呼び出します。

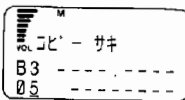
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+COPY CHに合わせ(TF/ENT)キーを押します。

3 コピー元のメモリーチャンネルが含まれるバンクを選択します。

ダイヤルまたはテンキーでバンクNo.を選択します。（(F TUNE)キーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。） DOWNキーでカーソルをチャンネルの位置に移動します。

4 コピー元のメモリーチャンネルを選択します。

ダイヤルまたはテンキーでコピー元のチャンネルNo.を選択し、(TF/ENT)キーを押します。

5 コピー先のメモリーチャンネルが含まれるバンクを選択します。

ダイヤルまたはテンキーでバンクNo.を選択します。（(F TUNE)キーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。） DOWNキーでカーソルをチャンネルの位置に移動します。

6 コピー先のメモリーチャンネルを選択します。

ダイヤルまたはテンキーでコピー先のチャンネルNo.を選択し、(TF/ENT)キーを押します。

設定をやり直すには、(SKIP/CLR)キーを押します。

ディスプレイがMR EDITメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ(TF/ENT)キーを押します。（または、ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(TF/ENT)キーを押します。）

3.4.10 メモリーバンクの移動

メモリーバンクに登録されたチャンネルを別のメモリーバンクNo.に移動することができます。

1 MR EDITメニューを呼び出します。

ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態で(SET/HELP)キーを押します。

メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MRに合わせ(TF/ENT)キーを押します。

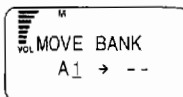
MRメニューが表示されるので、矢印を+MR EDITに合わせ(TF/ENT)キーを押します。

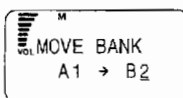
2 MOVE BANK画面を呼び出します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MOVE BANKに合わせ(TF ENT)キーを押します。

MR EDIT
→+MOVE BANK
+DEL BANK

3 移動元のメモリーバンクを選択します。

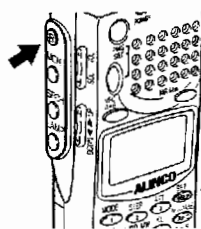
ダイヤルまたはテンキーで移動元のバンクNo.を選択し、(TF ENT)キーを押します。((F TUNE ・)キーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。)

4 移動先のメモリーバンクを選択します。

ダイヤルまたはテンキーで移動先のバンクNo.を選択し、(TF ENT)キーを押します。((F TUNE ・)キーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。)

設定をやり直すには(SKIP CLR)キーを押します。

ディスプレイがMR EDITメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ(TF ENT)キーを押します。(または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに**F**を表示した状態で(TF ENT)キーを押します。)

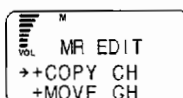
3.4.11 メモリーチャンネルの移動

メモリーチャンネルに登録された周波数と名前を他のメモリーチャンネルNo.に移動する機能です。

1 MR EDITメニューを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに**F**を表示した状態で(SET HELP)キーを押します。

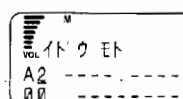
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MRに合わせ(TF ENT)キーを押します。

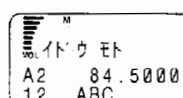
MRメニューが表示されるので、矢印を+MR EDITに合わせ(TF ENT)キーを押します。

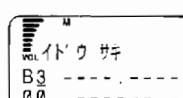
MR EDIT
→+COPY CH
+MOVE CH

2 MOVE CH画面を呼び出します。

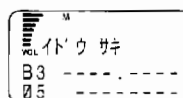
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MOVE CHに合わせ(TF ENT)キーを押します。

3 移動元のメモリーチャンネルが含まれるバンクを選択します。

ダイヤルまたはテンキーでバンクNo.を選択します。((F TUNE ・)キーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。) DOWNキーでカーソルをチャンネルの位置に移動します。

4 移動元のメモリーチャンネルを選択します。

ダイヤルまたはテンキーで移動元のチャンネルNo.を選択し、(TF ENT)キーを押します。

5 移動先のメモリーチャンネルが含まれるバンクを選択します。

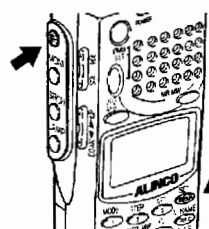
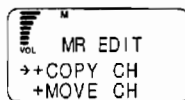
ダイヤルまたはテンキーでバンクNo.を選択します。((F TUNE ・)キーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。) DOWNキーでカーソルをチャンネルの位置に移動します。

6 移動先のメモリーチャンネルを選択します。

ダイヤルまたはテンキーで移動先のチャンネルNo.を選択し、(TF ENT)キーを押します。

設定をやり直すには、(SKIP CLR)キーを押します。

ディスプレイがMR EDITメニューに戻るので、矢印をENDに合わせ(TF ENT)キーを押します。(または、Ⓕキーを押し、ディスプレイに**F**を表示した状態で(TF ENT)キーを押します。)

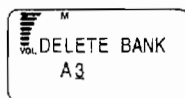
3.4.12 メモリーバンクの消去

指定したメモリーバンク内のチャンネル全てを消去する機能です。

1 MR EDITメニューを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でSET/HELPキーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MRに合わせTF/ENTキーを押します。
MRメニューが表示されるので、矢印を+MR EDITに合わせTF/ENTキーを押します。

2 DEL BANK画面を呼び出します。

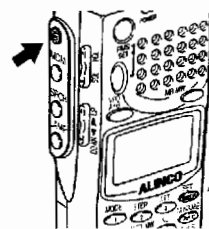
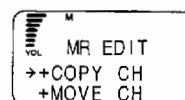
ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+DEL BANKに合わせTF/ENTキーを押します。

3 消去したいメモリーバンクを選択します。

ダイヤルまたはテンキーで消去したいバンクNo.を選択し、TF/ENTキーを押します。（F TUNEキーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。）

ディスプレイがMR EDITメニューに戻るので、矢印をENDに合わせTF/ENTキーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でTF/ENTキーを押します。）

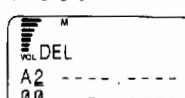
3.4.13 メモリーチャンネルの消去と復活

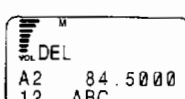
メモリーチャンネルに登録された周波数と名前を消去、復活する機能です。

1 MR EDITメニューを呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でSET/HELPキーを押します。
メニューが表示されるので、ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+MRに合わせTF/ENTキーを押します。
MRメニューが表示されるので、矢印を+MR EDITに合わせTF/ENTキーを押します。

2 DEL CH画面を呼び出します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、矢印を+DEL CHに合わせTF/ENTキーを押します。

3 消去したいメモリーチャンネルが含まれるバンクを選択します。

ダイヤルまたはテンキーでバンクNo.を選択します。（F TUNEキーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。）DOWNでカーソルをチャンネルの位置に移動します。

4 消去したいメモリーチャンネルを選択します。

ダイヤルまたはテンキーで消去したいチャンネルNo.を選択し、TF/ENTキーを押します。（F TUNEキーを押すとバンクグループA～Eが切り替わります。）

設定をやり直すには、SKIP/CLRキーを押します。

ディスプレイがMR EDITメニューに戻るので、矢印をENDに合わせTF/ENTキーを押します。（または、Ⓕキーを押し、ディスプレイにFを表示した状態でTF/ENTキーを押します。）

● 消去したメモリーチャンネルの復活

一度消去してしまったメモリーチャンネルを復活することができます。
上記と同様の手順で消去したチャンネルNo.を呼び出し、TF/ENTキーを押すと消去する前に登録されていたチャンネルが復活します。

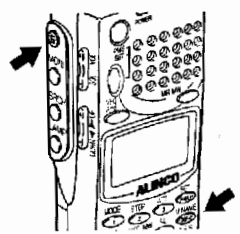
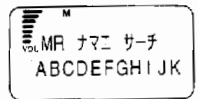
⚠ メモ　消去したチャンネルNo.に、すでに別の周波数を登録している場合は、復活できません。

3.4.14 メモリータグ検索

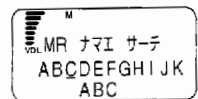
登録されたメモリーチャンネルを、名前で検索する機能です。

1 MRナマエ サーチ（MR NAME SRC）画面を呼び出します。

Ⓕキーを押し、ディスプレイに🅵を表示した状態で M NAME (RFC) キーを押します。

```
M
MR ﾅﾏｴ ｻｰﾁ
ABCDEFGHIJK
```

2 検索する文字を入力します。

ダイヤルを回して文字を選択し、DOWNキーで入力します。UPキーを押すと入力した文字をキャンセルできます。最初の何文字かを入力するだけでも、該当するチャンネルを検索できます。最低1文字は入力してください。

```
M
MR ﾅﾏｴ ｻｰﾁ
ABCDEFGHIJK
ABC
```

3 検索を開始します。

TF (ENT) キーを押すと検索を開始します。
検索が終了すると、ディスプレイに該当するチャンネルが表示されます。
2件以上見つかった場合は、ディスプレイに右端に→が表示され、2件以上あることを示します。

4 チャンネルを選択します。

ダイヤルまたはUP/DOWNキーで、受信したいチャンネルを選択し、TF (ENT) キーを押します。

⚠ メモ　登録されたメモリーチャンネルが多いと、検索に時間がかかります。

4. 付録

4.1 定格

<table>
<tr><td>受信周波数範囲</td><td colspan="2">0.1MHz~2149.999950MHz</td></tr>
<tr><td>受信電波型式</td><td colspan="2">WFM、NFM、AM、USB、LSB、CW</td></tr>
<tr><td>周波数ステップ</td><td colspan="2">AUTO STEP、50Hz、100Hz、200Hz、500Hz、1kHz、2kHz、5kHz、6.25kHz、8.33kHz、9kHz、10kHz、12.5kHz、15kHz、20kHz、25kHz、30kHz、50kHz、100kHz、125kHz、150kHz、200kHz、250kHz、500kHz、USER STEP（任意）
（および1MHz、10 MHz、100MHz桁のみ可変可能）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">受信感度

※電気通信事業用周波数帯は除く。
※感度数値はTyp値です。</td><td>0.1MHz~5MHz</td><td>AM 1.5μV（10dB S/N）
SSB/CW 0.6μV（10dB S/N）</td></tr>
<tr><td>5MHz~900MHz</td><td>AM 1.0μV（10dB S/N）
SSB/CW 0.5μV（10dB S/N）
NFM 0.5μV（12dB SINAD）
WFM 2.0μV（12dB SINAD
ステレオ受信時）</td></tr>
<tr><td>900MHz~2150MHz</td><td>SSB/CW 1μV（10dB S/N）
NFM 2μV（12dB SINAD）
WFM 4μV（12dB SINAD）</td></tr>
<tr><td>メモリーチャンネル</td><td colspan="2">2000チャンネル</td></tr>
<tr><td>サーチパスメモリー</td><td colspan="2">1000チャンネル</td></tr>
<tr><td>プライオリティチャンネル</td><td colspan="2">1チャンネル（2000チャンネル内で任意設定可）</td></tr>
<tr><td>メモリーバンク</td><td colspan="2">50バンク</td></tr>
<tr><td>1バンクチャンネル</td><td colspan="2">40チャンネル</td></tr>
<tr><td>サーチバンド</td><td colspan="2">20プログラム</td></tr>
<tr><td>アンテナコネクター</td><td colspan="2">BNC 50Ω</td></tr>
<tr><td>電源</td><td colspan="2">4.8V DC （NICAD）、7.2V DC （NICAD）、6V DC（単3乾電池）</td></tr>
<tr><td>外部電源</td><td colspan="2">10~16V DC</td></tr>
<tr><td>定格出力</td><td colspan="2">100mW以上 10% THD</td></tr>
<tr><td>消費電流</td><td colspan="2">定格出力時 :約150mA（6V電源使用時）
待機時 :約100mA
BS時 :約50mA</td></tr>
<tr><td>重量</td><td colspan="2">約200g</td></tr>
<tr><td>外形寸法</td><td colspan="2">57×150×27.5mm</td></tr>
<tr><td>動作保証温度</td><td colspan="2">−10~50℃</td></tr>
</table>

4.2 故障とお考えになる前に

症　状	原　因	処　置
電源スイッチを入れてもディスプレイに何も表示されない。	電池の＋/－の極性が逆になっている。	電池の極性を確認して入れなおす。
	古い電池を使用している。	新しい電池と交換する。
	バッテリーケースの接触不良。	バッテリーケースや電池の汚れを確認する。
スピーカーから音が出ない。	ボリュームが小さすぎる。	本体左側のVOLキーを押してからUPキーを押してボリュームを上げる。（P.20参照）
	スケルチレベルが高すぎる。	本体左側のSQLキーを押してからDOWNキーを押して、ノイズが出るところまでレベルを下げた後、ノイズが聞こえなくなるところまでレベルを上げる。（P.21参照）
受信できない。	アンテナが正しくセットされていない。	アンテナを確実に取り付ける。（P.13参照）
周波数や各種設定ができない。	キーロック機能が働いている。	キーロックを解除する。（P.28参照）
警告音が鳴ったり、音が歪んだりする。表示が消える。	電池が消耗している。	ディスプレイに B が表示されたら、電池を交換する。

4.3 オプション

DJ-X2000には、次のオプションがあります。

EBP-33N	ニッカドバッテリーパック（4.8V 650mA）	¥4,500	
EBP-34N	ニッカドバッテリーパック（4.8V 1200mA）	¥6,800	
EBP-35N	ニッカドバッテリーパック（7.2V 900mA）	¥8,000	
EBP-37N	ニッカドバッテリーパック（4.8V 700mA）	¥4,000	（標準装備品）
EDC-36	アクティブフィルター付シガーライターケーブル	¥2,000	
EDC-59	急速充電器	¥9,800	
EDC-88	急速充電器		（標準装備品）
EME-6	プチ型イヤホン	¥1,500	
ESC-28	ソフトケース（ショートサイズ）	¥2,000	
ESC-28	ソフトケース（標準サイズ）	¥2,000	
ESC-28	ソフトケース（ロングサイズ）	¥2,000	
EBC-6	モービルブラケット	¥1,800	
DM-305MV	外部DC電源	¥12,800	
EDC-75	ACアダプター	¥2,000	
EDC-37	基地局用DCケーブル	¥800	

4.4ヘルプ機能一覧

ヘルプ機能のメニュー一覧です。「動作の有無」の項目で●が付いている項目は、ENT(TF)キーを押すと、現在表示中の機能または設定を実行します。
ヘルプ機能の操作方法については、『2.15 ヘルプ機能』（P.32）をお読みください。

ヘルプの構成

ヘルプ	ヘルプの使い方を説明しています。 矢印を[HELP]に合わせてENT(TF)キーを押します。
キー操作	各キーの機能を説明しています。 矢印を+KEYに合わせてENT(TF)キーを押します。
機能	各機能の操作方法を説明しています。 矢印を+FUNCTIONに合わせてENT(TF)キーを押します。

キー操作

メニュー	動作の有無	操作説明の有無
[SET]		●
[POWER]		●
[DIAL]		●
[VOL]		●
[SQL]		●
[F]		●
[MONI]		●
[F]&[MONI]		●
[LAMP]		●
[SRCH]		●
[F]&[SRCH]		●
[VFO]		●
[A=B]		●
[MR]		●
[MW]		●
[PMS]		●
[ENT]		●
[CLR]		●

メニュー	動作の有無	操作説明の有無
[SCN]		●
[RF C]		●
[.]		●
[MODE]		●
[STEP]		●
[ATT]		●
[MIC]		●
[AUTO MW]		●
[KL]		●
[M NAME]		●
[SCRT]		●
[PRIO]		●
[CTCSS]		●
[A~B S]		●
[SKIP]		●
[REC]		●
[F TUNE]		●
[TF]		●

機能

メニュー	サブメニュー		動作の有無	操作説明の有無
VFO	セツメイ			●
	COPY A=B			●
	COPY MR. CH			●
	COPY PMS			●
MR	セツメイ			●
	COPY CH		●	●
	DEL CH		●	●
	COPY BANK		●	●
	DEL BANK		●	●
	MR LINK		●	●
	MODE SEL		●	●
	SCAN SKIP		●	●
	SET CTCSS		●	●
	M. TUNE		●	●
PMS	セツメイ			●
	SCAN PASS		●	●
	COPY		●	●
	DEL		●	●
	PMS LINK		●	●
	AUTO MR WR		●	●
SCAN	VFO		●	●
	MR		●	●
	A~B S		●	●
	MODE SCAN		●	●
	PMR SCAN		●	●
	VFO LINK		●	●
	S_LEVEL		●	●
	CTCSS SCAN		●	●
	SCAN SETUP	SCAN MODE	●	●
		BUSY Timer	●	●
		RX Timer	●	●
CH SCOPE	SCAN MODE	SINGLE		●
		INTERVAL		●
		CONTINUE		●
		セッテイ!	●	

メニュー	サブメニュー		動作の有無	操作説明の有無
LAMP	AUTO			●
	MOMENTARY			●
	ALTERNATE			●
	セッテイ!		●	
TIMER			●	●
BEEP			●	●
TONE			●	●
STEREO			●	●
BELL			●	●
BATT SAVE			●	●
BATT VOLT			●	●
LANGUAGE	Japanese			●
	English			●
	セッテイ!		●	
DIRECT WR			●	●
MESSAGE			●	●
CLONE	セツメイ			●
	TX CLONE		●	●
	RX CLONE		●	●
CTCSS SET	MANUAL			●
	REVERSE			●
	セッテイ!		●	
RESET	SYSTEM			●
	ALL			●
SPECIAL	A/B SQ SET		●	●
	FLASH TUNE		●	●
	RF CHECK	CHECKER	●	●
		CallWait	●	●
	REC	RX AF		●
		MIC		●
		セッテイ!	●	
	TRANCEIVER		●	●

PF0063

訂正とお詫び

本機（ＤＪ－Ｘ２０００）取扱説明書中で誤記が、ありましたので、お詫びの上、訂正させて頂きます。

訂正個所

３．３．２　パス機能　ｐ７３
矢印をパス設定を消去したい周波数に合わせ、
０キーを押します。

４．３　オプション　ｐ８６
ＥＳＣ－２９　ソフトケース（標準サイズ）　¥2,000
ＥＳＣ－３０　ソフトケース（ロングサイズ）¥2,000

補足説明

３．１．８　電界強度計　ｐ３８
ＢＳ設定時は間欠動作しますので、連続動作したい場合
Ｆキーを押しながらＭＯＮＩキー押すか、ＭＯＮＩキーを
押しつづけて下さい。

３．１．２３　瞬間同調機能　ｐ５０
２　瞬間同調機能を設定します。
ダイヤルまたはＵＰ／ＤＯＷＮキーで、矢印を設定したいキーに
合わせＥＮＴキーを、押します。
確定終了するには、Ｆキーを押しながら、ＥＮＴキーを押します。